



取扱説明書

Home Projector

EF-12 | androidtv

マニュアル中の表示の意味	5	プロジェクターの電源を切る	30
プロジェクターを使用する前に	8	設置モードを選択する	31
プロジェクターの各部名称と働き	9	メニューから設置モードを変更する	31
プロジェクターの各部名称 - 前面/上面	9	映像の高さを調整する	32
プロジェクターの各部名称 - 背面	10	映像の形状を補正する	33
プロジェクターの各部名称 - 底面	10	映像のゆがみとピントを自動的に補正する	33
プロジェクターの各部名称 - 操作パネル	11	映像のゆがみを手動で補正する	33
プロジェクターの各部名称 - プロジェクターリモコン	12	8点補正を使用して映像のゆがみを補正する	34
プロジェクターを準備する	14	ピントを調整する	36
プロジェクターの設置	15	投写映像を切り替える	37
プロジェクターの設置・取り付け	16	映像のアスペクト比を設定する	38
設置時のご注意	17	映像のアスペクト比を切り替える	38
投写距離	18	アスペクトモードの種類	39
プロジェクターをVESA対応製品や三脚に取り付ける	18	映像を最適化する（カラーモード）	40
プロジェクターを接続する	21	カラーモードを変更する	40
ビデオ機器を接続する	21	カラーモードの種類	41
ヘッドフォンを接続する	21	映像の光量を調整する	42
ARC対応AVアンプを接続する	22	映像を最適化する（詳細設定）	43
リモコンに電池を取り付ける	23	光源の明るさを設定する	44
リモコンを操作する	24	音量ボタンで音量を調整する	45
Android TV™を設定する	25	サウンドを調整する（サウンドモード）	46
Android TV™ホーム画面	26	サウンドモードの種類	47
プロジェクターの基本機能を使用する	27	サウンドの詳細設定	47
プロジェクターの電源を入れる	28	プロジェクターの便利な機能	49
ACアダプターを安全にお使いいただくために	28	プロジェクターをBluetoothスピーカーとして使用する	50
		Bluetooth仕様	50
		映像を一時的に遮断する	52

HDMI CEC機能	53
HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する	53
セキュリティケーブルを取り付ける	55
ファームウェアを更新する	56
プロジェクターを初期化する	57

メニューの設定

プロジェクター設定を操作する	59
画質メニュー	60
サウンドメニュー	62
表示メニュー	64
設定メニュー	65

プロジェクターをメンテナンスする

プロジェクターのメンテナンス	67
レンズを清掃する	68
本機を清掃する	69
エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする	70
エアフィルターと吸排気口を清掃する	70
エアフィルターを交換する	70

困ったときに

トラブルの対処方法	74
インジケータの見方	75
電源に関するトラブル	77
電源が入らない	77

予期せず電源が切れる	77
映像に関するトラブル	78
映像が表示されない	78
映像がゆがむ	78
映像がぼやける	79
映像の一部が表示されない	79
映像にノイズが入る、乱れる	79
映像の明るさや色合いが違う	80
映像が上下反転して表示される	80

音声に関するトラブル	81
音が出ない、小さい	81
Bluetoothスピーカーモードでのトラブル	81

リモコン操作に関するトラブル	83
----------------------	----

HDMI CECに関するトラブル	84
------------------------	----

Wi-Fiネットワークに関するトラブル	85
---------------------------	----

Android TV™に関するトラブル	86
---------------------------	----

付録

オプション・消耗品一覧	88
設置用金具	88
消耗品	88

スクリーンサイズと投写距離	89
---------------------	----

対応解像度	91
-------------	----

本機仕様	92
ACアダプター	92
接続端子	92

外形寸法図	93
-------------	----

安全規格対応シンボルマークと説明	94
------------------------	----

レーザー製品を安全にお使いいただくために	96
----------------------------	----

レーザー警告ラベル	96
用語解説	98
一般のご注意	99
使用限定について	99
本機を日本国外へ持ち出す場合の注意.....	99
瞬低（瞬時電圧低下）基準について.....	99
JIS C 61000-3-2適合品.....	99
商標について	99
ご注意	100
著作権について	100

マニュアル中の表示の意味

安全に関する表示

本製品および取扱説明書には、製品を安全にお使いいただくために絵表示が使われています。

人体への危害や財産への損害を防ぐために、次の絵表示で表記された説明は、内容をよくお読みいただいた上で、説明に従ってお取り扱いください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する表示

 注意	注意して取り扱わないと、本機の故障や損傷の原因となるおそれがある内容を記載しています。
	知っておくと便利な関連情報を記載しています。
 ボタン	リモコンまたは操作パネルのボタン名称を示しています。 例：  ボタン
[メニュー名/設定名]	プロジェクターのメニューや設定の名称を示しています。 例： [画質・映像] メニューを選択する  [画質・映像] > [色設定]
	関連事項を記載しているページを示しています。
	プロジェクターのメニューの階層を示しています。

マニュアルの使い方と情報の探し方

PDFマニュアルでは、探したい情報のキーワードから該当箇所を検索したり、しおりから直接ジャンプしたりすることができます。また、必要なページだけ印刷することもできます。ここでは、PDFマニュアルをコンピュータのAdobe Reader Xで開いた場合の使い方を説明します。

キーワードで検索する

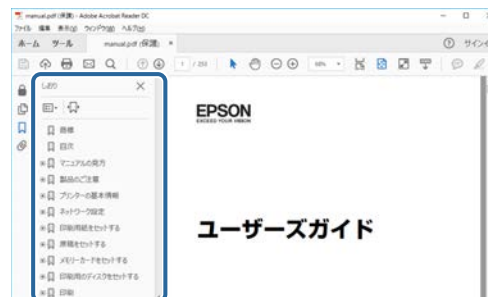
〔編集〕メニューの〔高度な検索〕をクリックします。検索ボックスに探したい情報のキーワード（語句）を入力して、〔検索〕をクリックします。キーワードの該当箇所が一覧で表示されます。表示された文字列をクリックすると、該当ページにジャンプします。



しおりから直接ジャンプする

タイトルをクリックするとそのページにジャンプします。〔+〕または〔>〕をクリックすると下の階層のタイトルが表示されます。ジャンプ前のページに戻りたいときは、キーボードで以下の操作をします。

- Windows：〔Alt〕キーを押したまま〔←〕キーを押します。
- Mac OS：commandキーを押したまま〔←〕キーを押します。



必要なページだけ印刷する

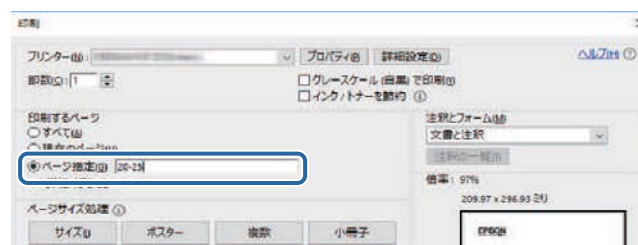
紙で読みたいページだけを抜き出して印刷できます。［ファイル］メニューの［印刷］をクリックして、［印刷するページ］の［ページ指定］で印刷したいページを指定します。

- 連続したページの指定は、開始ページと終了ページの間にハイフンを入れます。

例：20-25

- 連続していない複数ページの指定は、ページをカンマで区切ります。

例：5,10,15



プロジェクターを使用する前に

本機の各部名称について説明します。

▶ 関連項目

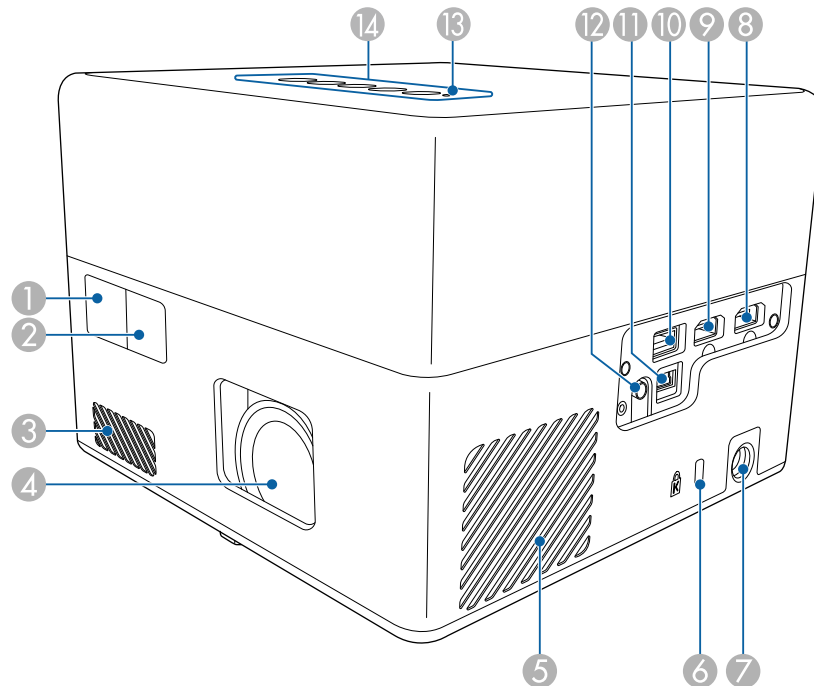
- ・「プロジェクターの各部名称と働き」 [p.9](#)

本機の各部名称とその働きについて説明します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターの各部名称 - 前面/上面」 [p.9](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - 背面」 [p.10](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - 底面」 [p.10](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - 操作パネル」 [p.11](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - プロジェクターリモコン」 [p.12](#)

プロジェクターの各部名称 - 前面/上面



名称		働き
①	リモコン受光部	リモコン信号を受信します。
②	カメラ	映像の形状とピントを自動的に補正します。
③	吸気口	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
④	投写レンズ	ここから映像を投写します。
⑤	吸気口（エアフィルター）	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
⑥	セキュリティーロック	Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応したセキュリティーロックです。
⑦	ACアダプター端子	ACアダプターを接続します。
⑧	HDMI1端子	HDMIに対応したビデオ機器やコンピュータの信号を入力します。 本機はHDMI 2.3に対応しています。
⑨	HDMI2 (ARC)端子	HDMIに対応したビデオ機器やコンピュータの信号を入力します。 本機はHDMI 2.3に対応しています。 この端子はHDMI ARCに対応しています。
⑩	USB-A端子	ウェブカメラ、外付けハードディスク、キーボードなどの市販のUSB機器を接続します。 市販のRJ45アダプターを接続すると、有線LANに接続できます。 すべてのUSB機器の動作を保証するものではありません。
⑪	Service端子	通常は使用しません。
⑫	Audio Out端子	投写中の入力ソースの音声をヘッドフォンに出力します。

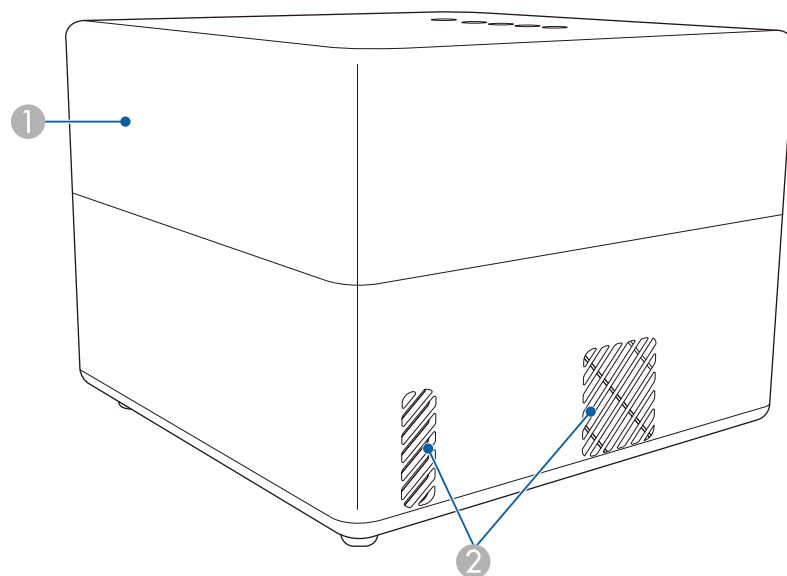
名称	働き
⑬ ステータスインジケータ	本機の状態を表示します。
⑭ 操作パネル	本機の操作をします。

▶ 関連項目

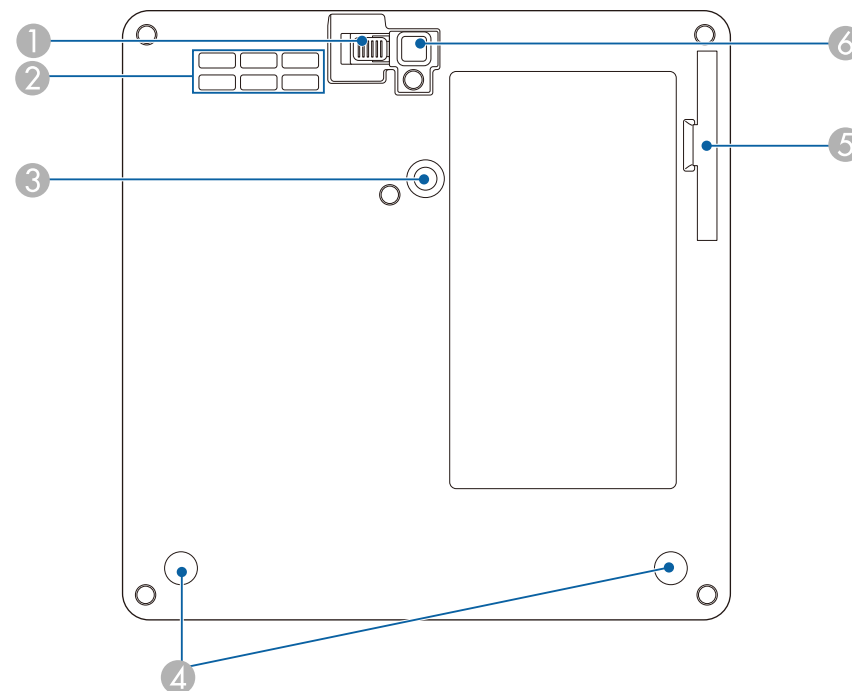
- ・「リモコンを操作する」 [p.24](#)
- ・「インジケータの見方」 [p.75](#)
- ・「ビデオ機器を接続する」 [p.21](#)
- ・「ARC対応AVアンプを接続する」 [p.22](#)
- ・「ヘッドフォンを接続する」 [p.21](#)
- ・「セキュリティーケーブルを取り付ける」 [p.55](#)

名称	働き
① スピーカー	音声を出力します。
② 排気口	本機内部を冷却した空気の吐き出し口です。 ⚠ 注意 投写中は手や顔を排気口に近づけたり、熱による悪影響を受けるものを排気口の近くに置かないでください。排気口から温風が出るため、やけどや変形、事故の原因となります。

プロジェクターの各部名称 - 背面



プロジェクターの各部名称 - 底面



名称	働き
① フットレバー	フットレバーを押して、フロントフットを伸縮させます。
② 吸気口	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
③ マウントプレート固定部	同梱、またはオプションのマウントプレートをここに取り付けます。
④ リアフット（マウントプレート固定部）	2つのフットを反時計回りに回して外し、同梱、またはオプションのマウントプレートを取り付けます。
⑤ エアフィルターカバー	エアフィルターの清掃・交換時に開閉します。
⑥ フロントフット	机上設置時に、フットを伸ばして映像の高さを調整します。

▶ 関連項目

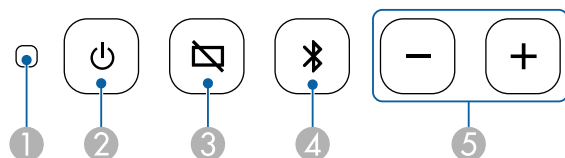
- ・「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 [p.70](#)
- ・「プロジェクターをVESA対応製品や三脚に取り付ける」 [p.18](#)
- ・「映像の高さを調整する」 [p.32](#)

名称	働き
② 電源ボタン	本機の電源をオン/オフします。
③ ブランクボタン	映像を一時的に遮断します。
④ Bluetoothスピーカーモードボタン	Bluetoothスピーカーモードに切り替えます。
⑤ 音量上げ/下げボタン	スピーカーやヘッドフォンの音量を調整します。

▶ 関連項目

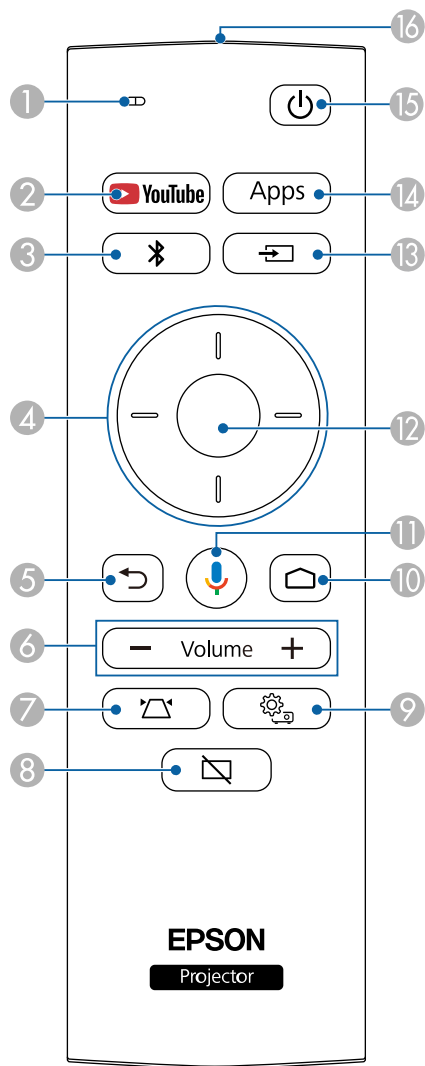
- ・「インジケータの見方」 [p.75](#)
- ・「プロジェクターをBluetoothスピーカーとして使用する」 [p.50](#)

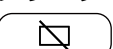
プロジェクターの各部名称 - 操作パネル



名称	働き
① ステータスインジケータ	本機の状態を表示します。

プロジェクターの各部名称 - プロジェクターリモコン



名称	働き
① インジケーター/マイク	リモコン信号が出力されているときに点灯します。 マイクボタンが押されたときに、ここで音声を検出します。
② YouTubeボタン 	YouTubeアプリを開きます。
③ Bluetoothスピーカーモードボタン 	Bluetoothスピーカーモードに切り替えます。
④ 上下左右ボタン 	メニューの表示中に押すと、メニュー項目を選択します。
⑤ 戻るボタン 	実行中の機能を終了します。 メニューの表示中に押すと、前のメニュー階層に戻ります。
⑥ 音量上げ/下げボタン 	スピーカーやヘッドフォンの音量を調整します。
⑦ 自動設置調整ボタン 	映像の形状とピントを自動的に補正します。
⑧ ブランクボタン 	映像を一時的に遮断します。
⑨ プロジェクター設定ボタン 	メニュー画面を表示/終了します。投写画面に表示されるメニューを使って、本機の各種動作を設定します。

名称	働き
⑩ ホームボタン 	Android TV™のホーム画面を表示します。
⑪ Google Searchボタン 	音声操作を行います。ボタンを押すと、リモコンのマイクで音声を認識します。
⑫ 【決定】ボタン	メニューの表示中に押すと、選択項目を決定して、次の階層に進みます。
⑬ 入力検出ボタン 	入力ソースの一覧を表示します。
⑭ Appsボタン 	Android TV™のアプリ一覧を表示します。
⑮ 電源ボタン 	本機の電源をオン/オフします。
⑯ リモコン発光部	リモコン信号を出力します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターをBluetoothスピーカーとして使用する」 [p.50](#)
- ・「映像のゆがみを手動で補正する」 [p.33](#)
- ・「8点補正を使用して映像のゆがみを補正する」 [p.34](#)
- ・「プロジェクターの電源を入れる」 [p.28](#)
- ・「音量ボタンで音量を調整する」 [p.45](#)
- ・「映像を一時的に遮断する」 [p.52](#)
- ・「プロジェクター設定を操作する」 [p.59](#)

プロジェクターを準備する

プロジェクターの準備方法を説明します。

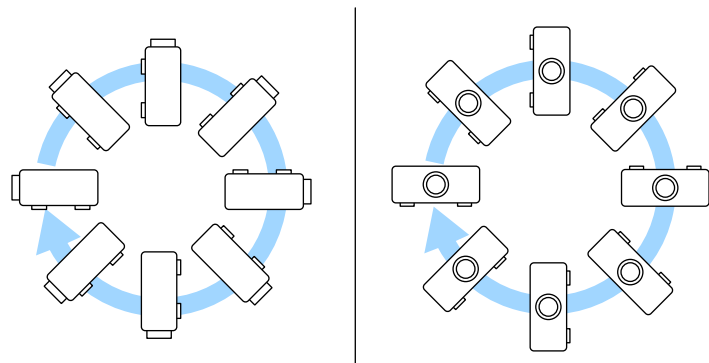
▶ 関連項目

- ・「プロジェクターの設置」 [p.15](#)
- ・「プロジェクターを接続する」 [p.21](#)
- ・「リモコンに電池を取り付ける」 [p.23](#)
- ・「Android TV™を設定する」 [p.25](#)

平らな場所にプロジェクターを置いて映像を投写します。

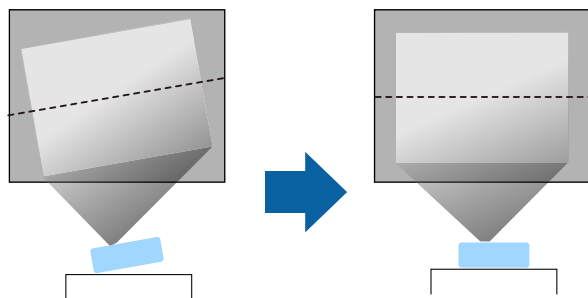
プロジェクターを常に特定の位置に固定して使用することもできます。市販の三脚やVESA規格対応金具に取り付けるときは、オプション、または同梱のマウントプレートが必要です。

本機はさまざまな角度で映像を投写できます。垂直、水平方向ともに設置角度に制限はありません。

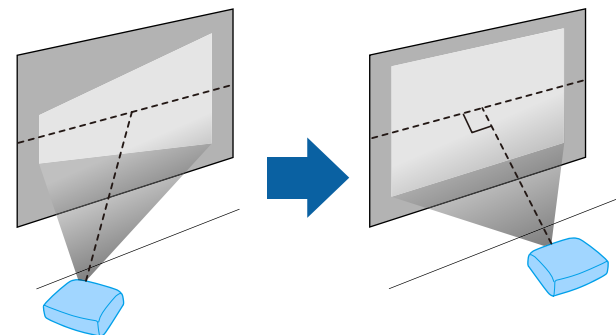


プロジェクターの設置位置を決めるときは、以下の点に注意してください。

- プロジェクターは水平で安定した場所に置くか、本製品に対応した金具を使用して取り付けます。



- 通気のためにプロジェクターの周囲に十分なスペースを確保します。通気の妨げになるものをプロジェクター上面や周囲に置かないでください。
- 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。



投写面に対して平行に設置できないときは、台形補正機能を使って映像を補正します。投写映像の画質を維持するためには、プロジェクターの設置位置を調整して映像サイズや形状を調整することをお勧めします。

⚠ 警告

- ・天井からプロジェクターを吊り下げるときは、天吊り金具の取り付けが必要となります。プロジェクターを正しく設置しないと、落下により破損やけがの原因となることがあります。
- ・プロジェクターのマウントプレート固定部に、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などを使用しないでください。プロジェクターにそれらの溶剤が付着すると、プロジェクターのケースが割れ、天吊り金具からプロジェクターが落下するおそれがあります。
- ・マウントプレート、ACアダプターホルダー、天吊り金具、およびプロジェクターの取り付け不備は、プロジェクターの落下事故につながるおそれがあります。VESA規格（75 x 75 mm）に準拠した金具と、オプションまたは同梱のマウントプレートを使用し、プロジェクターと金具を確実に固定してください。また、十分強度のあるワイヤーなどを使ってプロジェクターと金具を固定してください。
- ・湿気やホコリの多い場所や、油煙や湯気が当たる場所（調理場所、ご家庭のキッチン、加湿器の近くなど）にプロジェクターを設置しないでください。火災・感電の原因となることがあります。また、油によりプロジェクターの外装ケースが劣化し、天吊り設置したプロジェクターが落下するおそれがあります。

外装ケースの劣化・破損によりプロジェクターの落下が想定される環境例

- ・油煙が多い場所（工場、調理場所、ご家庭のキッチンなど）
- ・溶剤、薬品が揮発している空間（工場、実験室など）
- ・油、洗剤、薬品などが付着する場所（工場、調理場所、ご家庭のキッチンなど）
- ・アロマオイルを頻繁に焚く場所（リラクゼーションルームなど）
- ・イベント演出などのスモーク（油成分以外も含む）や、泡が多い場所（イベント演出装置の周辺など）

⚠ 警告

- ・本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- ・ホコリや塵の多い場所で使用・保管はしないでください。投写映像の品質が劣化したり、エアフィルターにホコリが詰まって、故障や火災につながる可能性があります。
- ・不安定な場所や荷重範囲を超える場所には設置しないでください。落下や転倒によりけがや事故の原因となります。
- ・高い場所に設置するときは、地震などの非常時の安全確保と事故防止のため、ワイヤーなどを用いて落下防止策を施してください。正しく設置しないと、落下によりけがや事故の原因となります。
- ・塩害が発生する場所や、温泉の硫黄ガスなどの腐食性ガスが発生する場所には設置しないでください。腐食による落下の原因となることがあります。また、本機の故障の原因となることがあります。

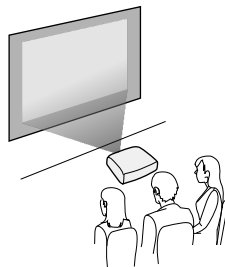
▶ 関連項目

- ・「プロジェクターの設置・取り付け」 [p.16](#)
- ・「投写距離」 [p.18](#)
- ・「プロジェクターをVESA対応製品や三脚に取り付ける」 [p.18](#)
- ・「映像の形状を補正する」 [p.33](#)
- ・「サウンドメニュー」 [p.62](#)
- ・「映像の高さを調整する」 [p.32](#)
- ・「ピントを調整する」 [p.36](#)

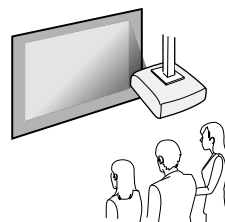
プロジェクターの設置・取り付け

本機は以下の方法で設置・取り付けできます。

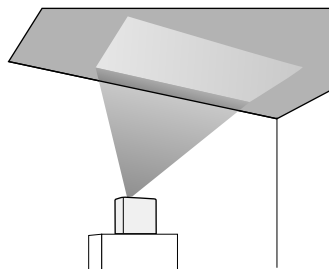
スタンダード



上下反転



天井投写



⚠ 注意

本機の投写レンズを物で覆ったり、ふさいだりしないでください。内部に熱がこもり、誤動作の原因となることがあります。

注意

- 天井投写をするときは、プロジェクター本体への傷、スピーカーを覆う布の破損、色移りなどを避けるため、保護マットなどの上に設置してください。
- スピーカーからの音声がこもることがあります。

▶ 関連項目

- 「設置時のご注意」 [p.17](#)
- 「設置モードを選択する」 [p.31](#)

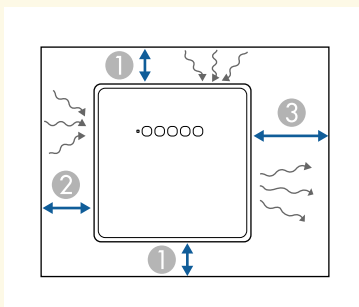
設置時のご注意

設置の際には以下の点にご注意ください。

設置スペース

注意

吸気口・排気口をふさがないように、本機の周辺には以下のスペースを確保してください。



- ① 10 cm
- ② 20 cm
- ③ 30 cm

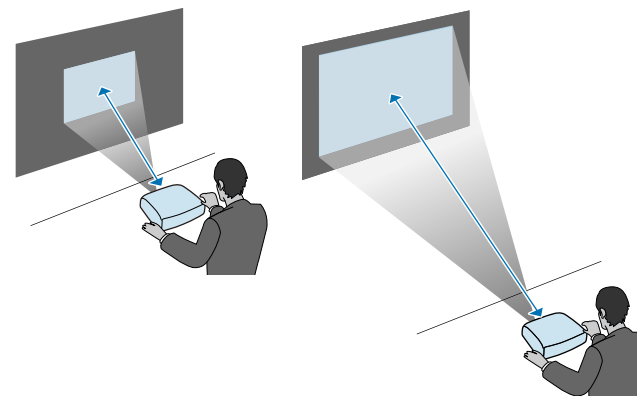
⚠ 注意

同梱のACアダプターは、本機から30 cm以上離して設置してください。本機からの熱によってACアダプターが高温になると、本機が正しく動作しないことがあります。

下図を参考にして、本機からスクリーンまでのおよその距離を決めてください。



台形補正後は、映像が少し小さくなります。



▶ 関連項目

- ・「スクリーンサイズと投写距離」 [p.89](#)

プロジェクターをVESA対応製品や三脚に取り付ける

オプション、または同梱のマウントプレート（ELPMB65）を使って、本機をVESA規格対応金具や三脚に取り付けることができます。

投写距離

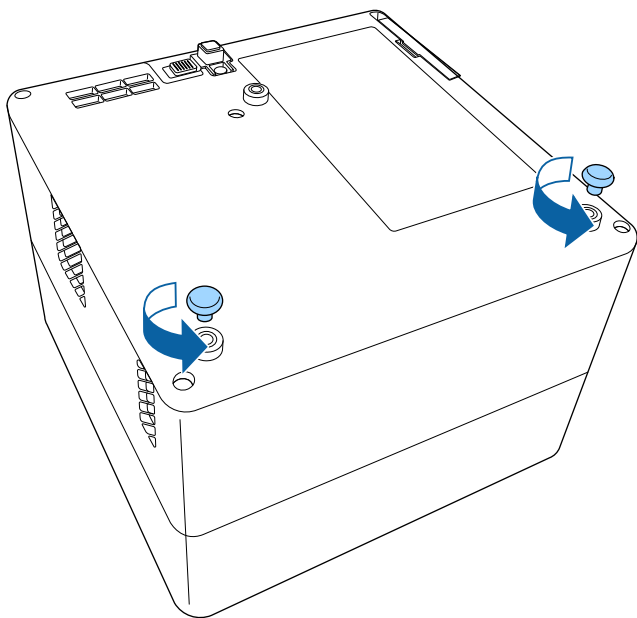
本機からスクリーンまでの距離に応じて、映像の大きさが決まります。本機をスクリーンから遠ざけるほど、投写される映像は大きくなります。アスペクト比などの設定によっても大きさが変わります。



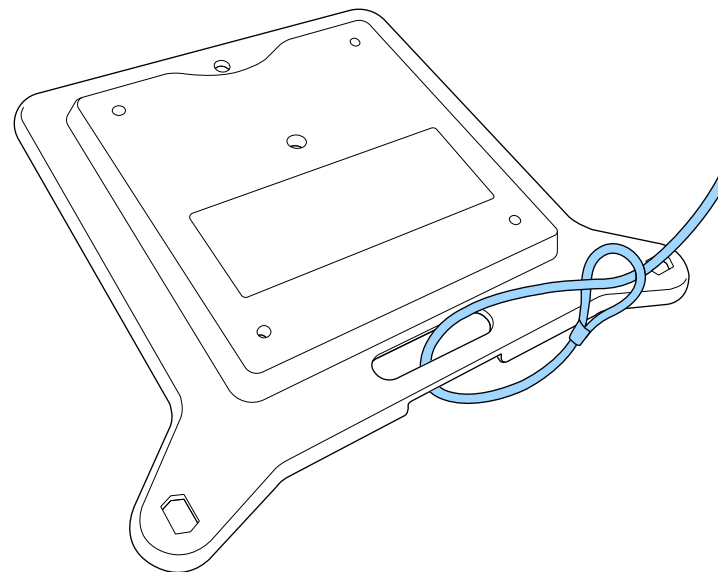
- VESA規格（75 × 75 mm）に準拠した市販の金具をご用意ください。
- 三脚は、1/4-20UNCサイズの固定ネジで取り付けられるものをご用意ください。
- 天井などの高い位置に設置するときは、安全のため、オプションのセーフティーワイヤーセット（ELPWR01）を取り付けます。

1 底面を上にしてします。

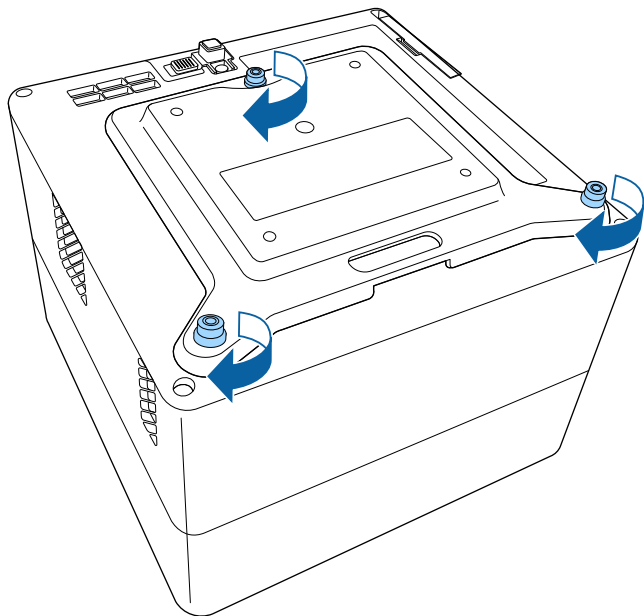
2 2つのリアフットを反時計回りに回して取り外します。



3 天井などの高い位置に設置するときは、オプションのセーフティーワイヤーセット（ELPWR01）をマウントプレートに通します。



- 4** マウントプレートに同梱のネジを使って、マウントプレートを本機に固定します。



⚠ 注意

手順2で取り外したリアフットを使って固定しないでください。リアフットがゆるみ、本機が落下するおそれがあります。

- 5** 本機をVESA規格対応金具や三脚に取り付けます。詳しくは、金具や三脚に付属の取扱説明書をご覧ください。

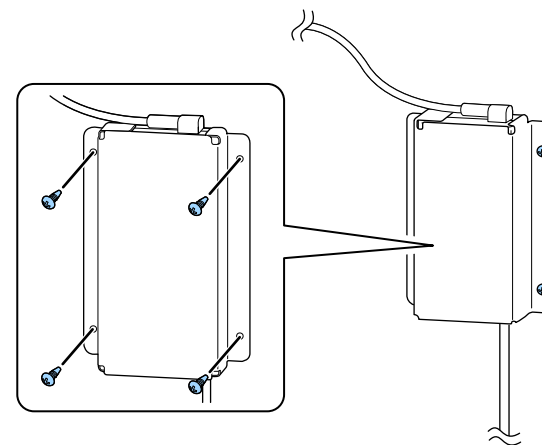
⚠ 注意

三脚に取り付けるときは、三脚のネジで確実に固定してください。逆さにするなど無理な位置で使用すると、固定ネジがゆるみ、本機が落下するおそれがあります。



天井などの高い位置に設置するときは、オプションのセーフティワイヤーセット（ELPWR01）のカラビナを、十分な強度のある場所につなぎます。

- 6** 必要に応じて、マウントプレートに同梱のACアダプターホルダーを使って、ACアダプターを壁や天井に固定します。



壁や天井の素材に適したネジをご用意ください。

プロジェクターと映像機器の接続方法を説明します。

注意

接続する前に、使用するケーブルのコネクターの形状と向きを確認してください。形状が合わないコネク터를無理に端子に押し込まないでください。お使いの機器、プロジェクターの破損や故障の原因となります。



本機に同梱されているケーブルは、『かんたんスタートガイド』で確認できます。同梱されていないケーブルは、オプション品または市販品をお買い求めください。

▶ 関連項目

- ・「ビデオ機器を接続する」 p.21
- ・「ヘッドフォンを接続する」 p.21
- ・「ARC対応AVアンプを接続する」 p.22

ビデオ機器を接続する

HDMI端子を搭載したビデオ機器があれば、HDMIケーブルでプロジェクターとビデオ機器を接続して映像と音声を出力できます。

注意

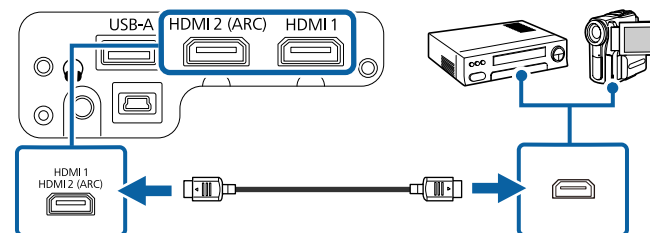
あらかじめビデオ機器の電源を切ってください。ビデオ機器の電源が入った状態で接続すると、故障の原因となります。



- ・接続する機器の端子が特有の形状をしているときは、その機器に同梱またはオプションのケーブルで接続してください。
- ・ビデオ機器によっては、数種類の信号を出力できます。出力できる信号の種類は、お使いのビデオ機器に同梱の取扱説明書で確認してください。

1 ビデオ機器のHDMI出力端子にHDMIケーブルを接続します。

2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI端子に接続します。



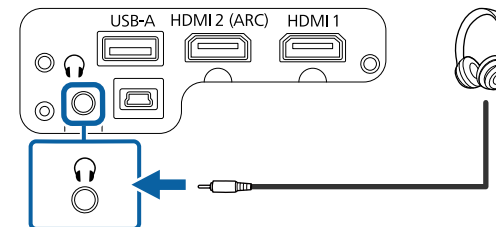
ヘッドフォンを接続する

本機のAudio Out端子にはヘッドフォンを接続できます。本機のリモコンで音量を制御できます。

注意

本機のAudio Out端子は3極プラグのヘッドフォン専用です。3極プラグ以外のヘッドフォンを接続すると、音声が正常に再生されない可能性があります。

1 ヘッドフォンのケーブルを本機のAudio Out端子に接続します。



⚠ 注意

初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

電源を切る前に音量を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

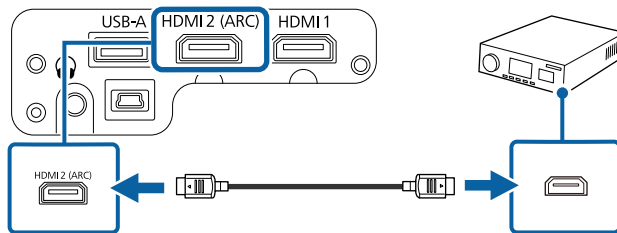


- HDMI2 (ARC)端子から音声出力するときは、[HDMI2 ARC]を[オン]に、[音声出力先]を[ARC]に設定します。
 - 👉 [設定] > [HDMI CEC] > [CECコントロール] > [HDMI2 ARC]
 - 👉 [サウンド] > [音声出力先]
- 高品質の音声出力するときは、[サウンド]メニューの[音声出力形式]を[オート]に設定します。

ARC対応AVアンプを接続する

HDMI端子を搭載したアンプを使用しているときは、HDMIケーブル（ARC対応）を使って、アンプに音声出力できます。

- 1** アンプのHDMI出力端子（ARC対応）にHDMIケーブルを接続します。
- 2** ケーブルのもう一方のコネクタを本機のHDMI2 (ARC)端子に接続します。

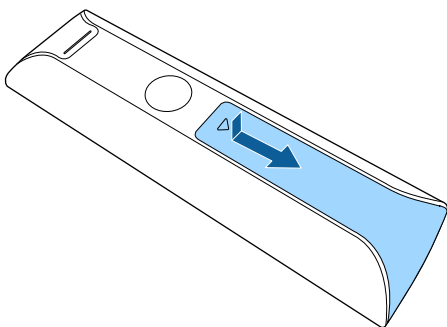


本機に付属の単4形電池2個をリモコンに取り付けます。

注意

電池を取り扱う前に、『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。

1 電池カバーを外します。

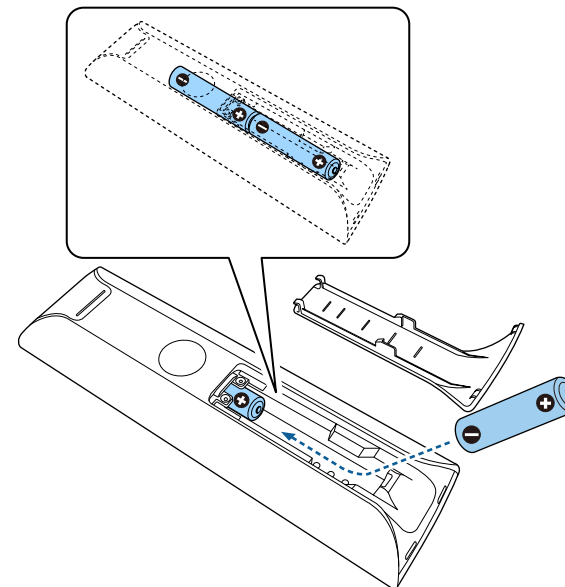


2 古い電池が入っていれば取り外します。



使用済みの電池は、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

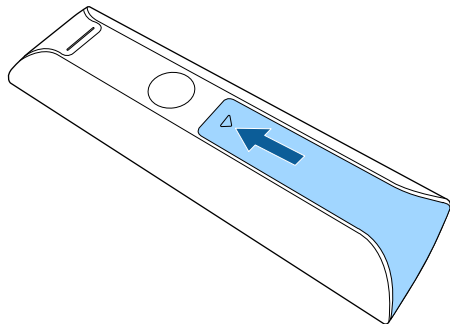
3 電池の + と - の向きを確認してリモコンにセットします。



警告

電池ホルダー内の表示を確認して、(+) (-) を正しく入れてください。電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

- 4** 電池カバーを閉め、カチッと音がするまで押し込みます。



蛍光灯の強い光や直射日光が当たる環境ではリモコンを使用しないでください。プロジェクターが操作に反応しないことがあります。リモコンを長期間使用しないときは、電池を取り外しておきます。

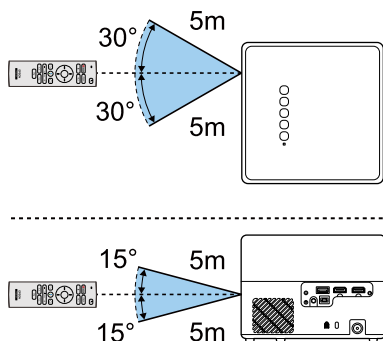
▶ 関連項目

- ・「リモコンを操作する」 [p.24](#)

リモコンを操作する

リモコンを使用して、室内の離れた場所からプロジェクターを制御できます。

リモコンは、本機のリモコン受光部に対して下図の角度で使用することをお勧めします。



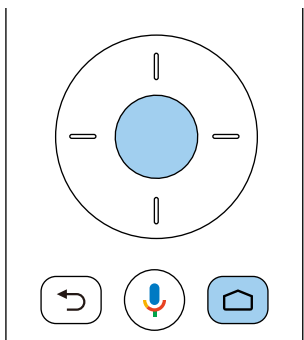
最初に本機の電源を入れたときには、Android TV™の初期設定が必要です。



初期設定が完了した後も、設定はいつでも変更できます。
Android TV™のホーム画面右上の⚙️を選択して、設定を変更してください。

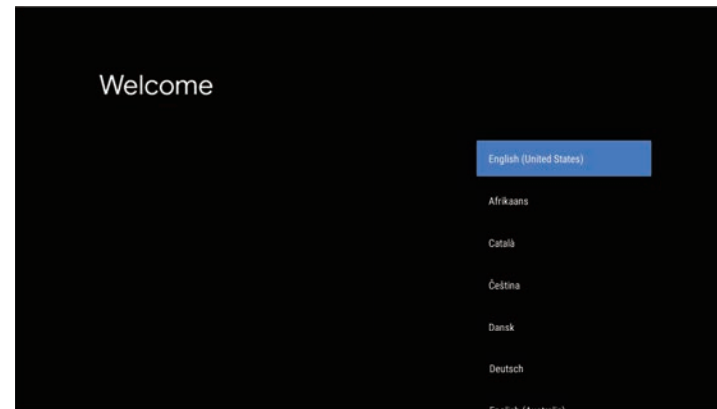
1 本機の電源を入れます。

2 ペアリング画面が表示されたら、【決定】ボタンとⓈボタン同時に長押しして、本機とリモコンをペアリングしてください。



ペアリングが始まると、リモコンのインジケータが点滅します。終了すると、インジケータは消灯します。

3 言語選択画面が表示されたら、使用したい言語を選択します。



4 Wi-Fi設定画面が表示されたら、接続する無線LANを選択します。画面の指示に従って必要な設定をします。

- ・オンラインコンテンツを視聴するには、インターネット接続が必要です。Wi-Fiが使用できることを確認してください。
- ・アプリのダウンロードやオンラインコンテンツを視聴する際の通信料はお客様の負担となります。

5 ログイン画面が表示されたら、Googleアカウントでログインします。

- ・Googleアカウントでログインすると、Google Playからさまざまな人気アプリやゲームをダウンロードできます。
- ・Googleアカウントは、お使いのコンピューターやスマートフォンからも作成できます。

初期設定が完了すると、ホーム画面が表示されます。

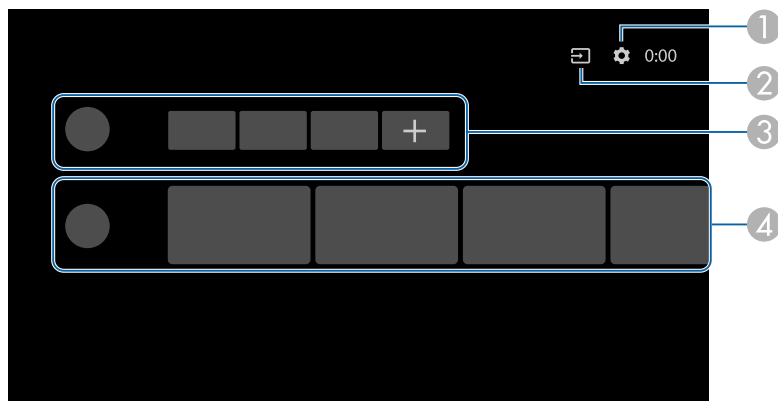
▶ 関連項目

- ・「Android TV™ホーム画面」 [p.26](#)

Android TV™ホーム画面

本機の電源を入れたときや、 ボタンを押したときには、Android TV™のホーム画面が表示されます。

ホーム画面を使うと、オンラインコンテンツ、アプリ、プロジェクター設定などを簡単に選択できます。



- ① Android TV™の「設定」メニューを表示します。Wi-Fi設定、言語設定、Googleアカウントの情報などを変更できます。
- ② 入力ソースの一覧を表示します。
- ③ ダウンロードしたAndroid TV™のアプリを表示します。+アイコンでアプリを追加できます。
- ④ おすすめのオンラインコンテンツを表示します。



ホーム画面の内容は、Android TV™のバージョンによって異なります。

プロジェクターの基本機能を使用する

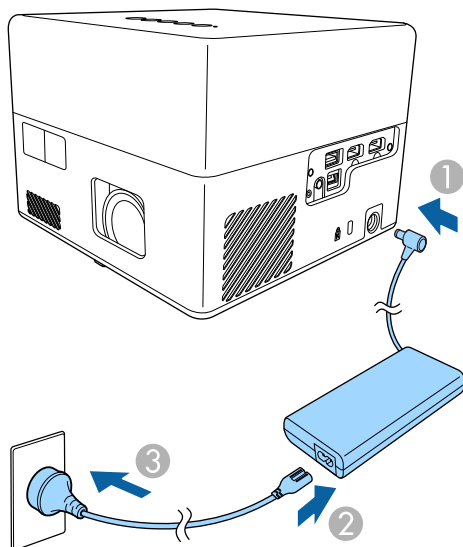
プロジェクターの基本機能を説明します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターの電源を入れる」 [p.28](#)
- ・「プロジェクターの電源を切る」 [p.30](#)
- ・「設置モードを選択する」 [p.31](#)
- ・「映像の高さを調整する」 [p.32](#)
- ・「映像の形状を補正する」 [p.33](#)
- ・「ピントを調整する」 [p.36](#)
- ・「投写映像を切り替える」 [p.37](#)
- ・「映像のアスペクト比を設定する」 [p.38](#)
- ・「映像を最適化する（カラーモード）」 [p.40](#)
- ・「映像の光量を調整する」 [p.42](#)
- ・「映像を最適化する（詳細設定）」 [p.43](#)
- ・「光源の明るさを設定する」 [p.44](#)
- ・「音量ボタンで音量を調整する」 [p.45](#)
- ・「サウンドを調整する（サウンドモード）」 [p.46](#)

本機にビデオ機器を接続するときは、本機の電源を入れてから、ビデオ機器の電源を入れます。

- 1** ACアダプターを本機のACアダプター端子に接続します。
- 2** 電源コードをACアダプターに接続します。
- 3** 電源コードをコンセントに差し込みます。



本機はスタンバイ状態になります。スタンバイ状態は、プロジェクターに電力が供給されていて、電源が入っていない状態です。

- 4** 操作パネルまたはリモコンの電源ボタンを押して本機の電源を入れます。
ステータスインジケータが青色に点滅します（ウォームアップ状態）。ウォームアップが終わると、ステータスインジケータが青色に点灯します。

最初に本機の電源を入れたときは、リモコンのペアリング画面と初期設定画面が表示されます。画面の指示に従って、設定してください。

⚠ 警告

- 投写中は本機のレンズをのぞきこまないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特にお子様の行動にご注意ください。
- 本機から離れた場所でリモコンを使って電源を入れるときは、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 投写中に本などで投写光を遮らないでください。投写光を遮ると、光の当たる部分が高温になって溶けたり、やけどや火災の原因になります。また、反射した光でレンズ部が高温になり、本機が故障する原因となります。投写を中断するときは、本機の電源を切ってください。

▶ 関連項目

- 「ACアダプターを安全にお使いいただくために」 [p.28](#)
- 「設定メニュー」 [p.65](#)

ACアダプターを安全にお使いいただくために

同梱のACアダプターは以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

警告

- ・ 次のような異常のときは、すぐに本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。そのまま使用を続けると、火災・感電の原因となります。
- ・ ACアダプターから煙が出ている。
- ・ ACアダプターから異臭や異音がする。
- ・ ACアダプターが破損している。
- ・ ACアダプターの内部に水や異物が入った。

警告

- ・ ACアダプターを正しく使用しないと、故障、火災、感電の原因になることがあります。次のことを守り、安全にお使いください。
- ・ 同梱のACアダプター以外は使用しないでください。
- ・ 同梱のACアダプターは本機専用です。本機以外の製品では使用しないでください。
- ・ ACアダプターに強い力や衝撃を加えないでください。
- ・ 濡れた手でACアダプターを操作しないでください。
- ・ ACアダプターを狭い場所に設置したり、布などをかぶせたりしないでください。
- ・ 通電中のACアダプターに長時間触れないでください。低温やけどの原因になることがあります。
- ・ ACアダプターに殺虫剤などの可燃性スプレーを吹きかけないでください。
- ・ ACアダプターを高圧容器や電子レンジなどの加熱調理機器に入れないでください。
- ・ ACアダプターを本機の排気口の近くに置かないでください。
- ・ 電源コードをACアダプターに巻き付けて使用しないでください。

使用後にプロジェクターの電源を切ります。



- ・本機を長くお使いいただくために、使用しないときは本機の電源を切ってください。光源の寿命は、環境条件や使用状況によって異なります。投写映像の明るさは、使用時間の経過にもなって低下します。

- 1** 操作パネルまたはリモコンの電源ボタンを押します。
光源がオフになり、ステータスインジケータが消灯します。
- 2** 本機を搬送または保管するときは、ステータスインジケータが消灯していることを確認してから電源コードを抜いてください。



- ・[電源ボタン設定] を [サスペンド] に設定すると、電源を切っても最小限の電力で動作を継続します。次回電源を入れたときに、本機の起動が早くなります。
 - ・[電源ボタン設定] を [サスペンド] に設定すると、操作パネルやリモコンのどのボタンでも本機を起動できます。
- ☛ [設定] > [電源ボタン設定]

» 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.65](#)

プロジェクターの設置方法によって、設置モードを変更します。

- ・ [スタンダード] : 机上に設置して、スクリーンの正面から投写します。
- ・ [上下反転] : 天吊りまたは壁掛け設置して、映像を上下反転して投写します。

▶ 関連項目

- ・ 「メニューから設置モードを変更する」 [p.31](#)
- ・ 「プロジェクターの設置・取り付け」 [p.16](#)

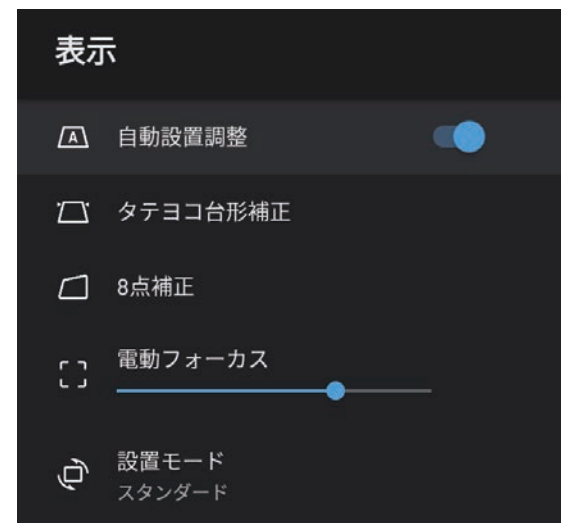
メニューから設置モードを変更する

メニューから設置モードを変更して、映像を上下反転します。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。

3 [表示] を選択して、【決定】ボタンを押します。



4 [設置モード] を選択して、【決定】ボタンを押します。

5 お使いの環境に合わせた設置モードを選択して、【決定】ボタンを押します。

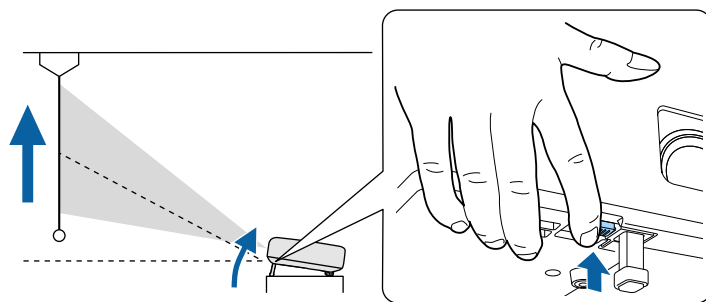
- ・ [スタンダード] : 机上に設置して、スクリーンの正面から投写します。
- ・ [上下反転] : 天吊りまたは壁掛け設置して、映像を上下反転して投写します。

6  ボタンを押してメニューを終了します。

机などの平らな場所に置いて投写するときは、プロジェクターのフットを使って高さを調整します。

傾斜角度が大きくなると、ピントが合いにくくなります。傾斜角度が小さくなるようにプロジェクターを設置してください。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** フットレバーを押して、フロントフットを伸縮させます。



プロジェクターからフロントフットが伸びます。

9度まで投写角度を調整できます。

- 3** フットレバーから指を離してフロントフットを固定します。

投写映像がゆがむときは、映像の形状を補正します。

▶ 関連項目

- ・「映像の形状を補正する」 [p.33](#)

スクリーンの正面にプロジェクターを設置して、水平にすることで、傾きやゆがみのない映像を投写できます。スクリーンに対して斜めにプロジェクターを設置したり、上下に傾けて設置したりしたときは、映像の形状を補正します。

補正後は、映像が少し小さくなります。

投写映像の画質を維持するためには、プロジェクターの設置位置を調整して映像サイズや形状を調整することをお勧めします。

▶ 関連項目

- ・「映像のゆがみとピントを自動的に補正する」 [p.33](#)
- ・「映像のゆがみを手動で補正する」 [p.33](#)
- ・「8点補正を使用して映像のゆがみを補正する」 [p.34](#)

映像のゆがみとピントを自動的に補正する

リモコンの  ボタンを押したとき、または本機を動かしたり傾けたりしたときは、[自動設置調整] 機能により、ピントのズレと映像のゆがみが自動的に補正されます。

[自動設置調整] で映像を補正できる条件は、以下のとおりです。

- ・スクリーンのサイズが100インチ以下
- ・投写距離が約0.7～2.2 m
- ・[表示] メニューで、[自動設置調整] が [オン] に設定されている
- ・[表示] メニューで、[設置モード] が [スタンダード] に設定されている



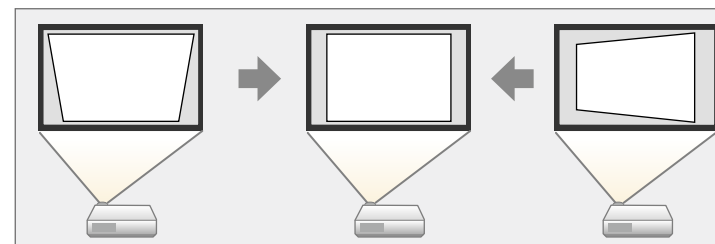
- ・[自動設置調整] はスクリーンのサイズが100インチ以上でも動作します。本機の設置角度や部屋の明るさ、スクリーンの材質などによっては映像を補正できないことがあります。必要に応じて、プロジェクターのメニューから手動で補正してください。
- ・[自動設置調整] を [オフ] に設定しているときは、 ボタンを押すとピントのみを自動的に補正します。

▶ 関連項目

- ・「表示メニュー」 [p.64](#)

映像のゆがみを手動で補正する

[表示] メニューを使用して、映像のゆがみを補正します。

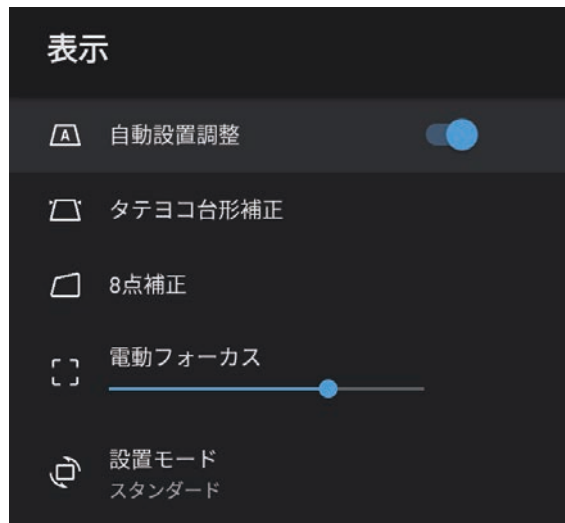


- ・同時に複数の補正方法を使って補正することはできません。
- ・縦方向は投写角度上下34°まで補正できます。
- ・横方向は投写角度左右40°まで補正できます。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。

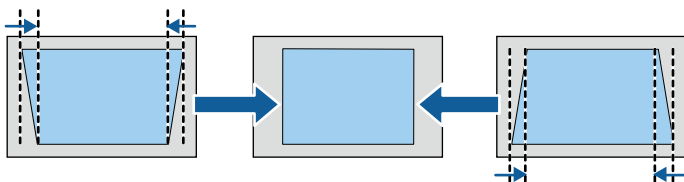
- 3** [表示] を選択して、【決定】ボタンを押します。



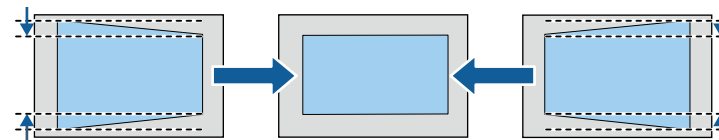
- 4** [タテヨコ台形補正] を選択して、【決定】ボタンを押します。

- 5** リモコンの上下左右ボタンで補正方法を選択して、映像の形状を補正します。

- ・ [タテ台形補正]



- ・ [ヨコ台形補正]



- 6** 終了したら、⌂ボタンを押します。

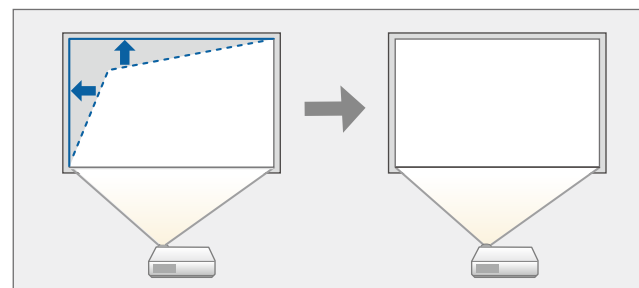
補正後は、映像が少し小さくなります。

▶ 関連項目

- ・ 「表示メニュー」 [p.64](#)

8点補正を使用して映像のゆがみを補正する

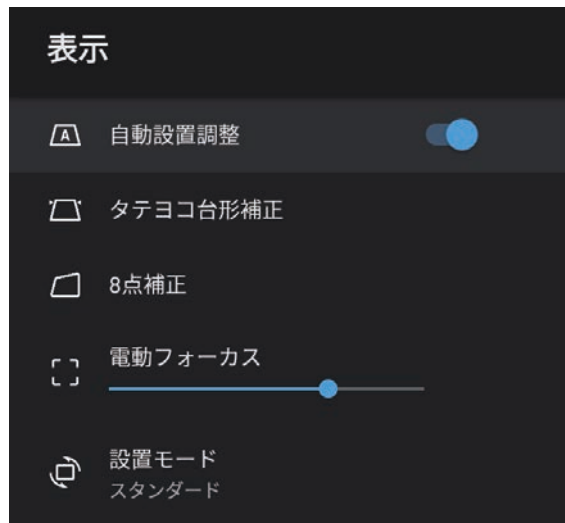
[8点補正] 機能を使用して、映像のゆがみとサイズを補正します。



- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。

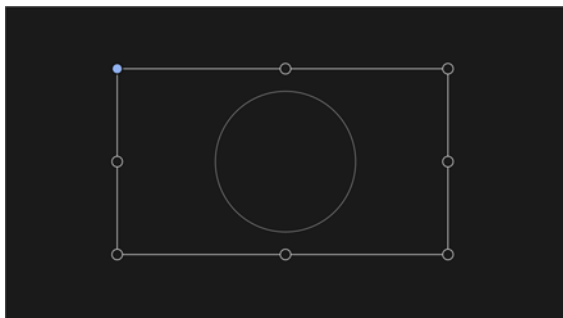
- 2** リモコンの⚙️ボタンを押します。

- 3** 「表示」を選択して、【決定】ボタンを押します。



- 4** 「8点補正」を選択して、【決定】ボタンを押します。
「8点補正」画面が表示されます。

- 5** 上下左右ボタンを押して補正するポイントを選択し、【決定】ボタンを押します。



- 6** 上下左右ボタンを押して、映像の形状を調整します。

⌂ ボタンを押すと、エリア選択画面に戻ります。

 画面上のグレーで示される方向にはこれ以上調整できません。

- 7** 手順5と6を繰り返して、調整が必要なすべてのポイントを調整します。

- 8** 終了したら、⌂ ボタンを押します。

» 関連項目

- ・「表示メニュー」 [p.64](#)

プロジェクターのメニューを使用して、ピントのズレを補正します。

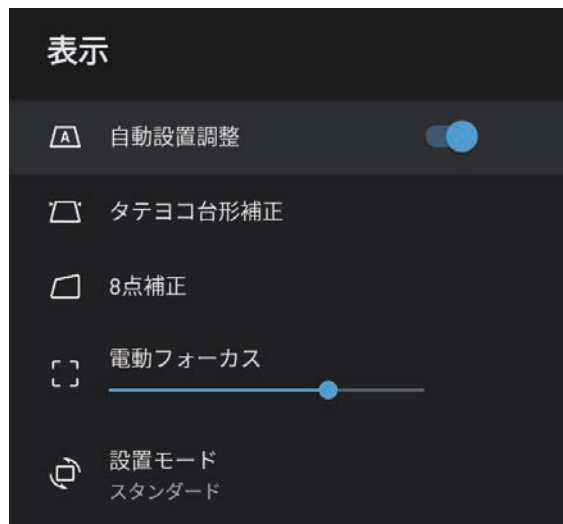


リモコンの  ボタンを押すと、[自動設置調整] 機能により、ピントのズレと映像のゆがみが自動的に補正されます。

» 関連項目

- ・「表示メニュー」 [p.64](#)

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンを押します。
- 3** [表示] を選択して、【決定】ボタンを押します。



- 4** [電動フォーカス] を選択します。
- 5** リモコンの左右ボタンを押して、ピントを補正します。
- 6** 終了したら、 ボタンを押します。

コンピューターとDVDプレーヤーなど複数の機器をプロジェクターに接続しているときは、投写する映像を切り替えます。

- 1** 接続機器の電源が入っていることを確認します。
- 2** ビデオ機器の映像を投写するときは、DVDなどのメディアを挿入して再生します。
- 3** リモコンの  ボタンを押します。
- 4** 上下ボタンで投写したい映像を選択します。



映像が表示されないときは、本機とビデオ機器が正しく接続されていることを確認してください。

本機はさまざまな縦横比（アスペクト比）で映像を表示できます。通常は、接続機器からの入力信号によって映像のアスペクト比が決まります。映像をスクリーンに合わせるために、手動でアスペクト比を切り替えることもできます。

常に特定のアスペクト比で投写するときは、[画質] メニューでアスペクト比を設定します。

▶ 関連項目

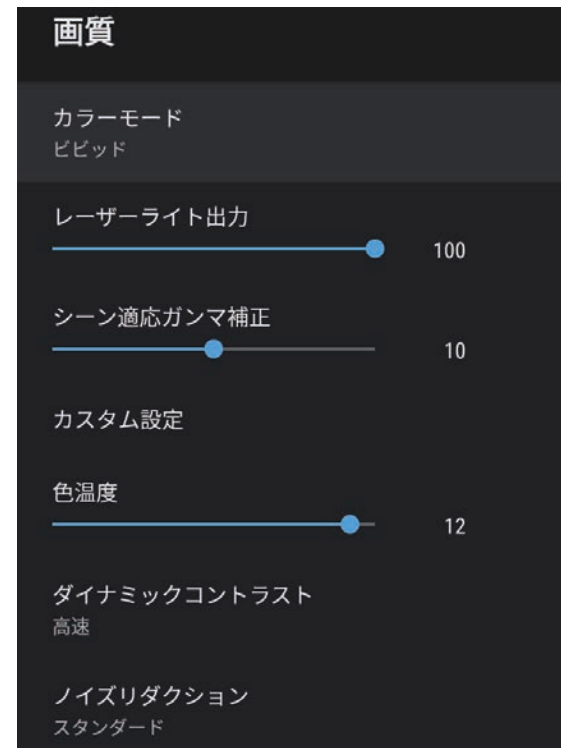
- ・「映像のアスペクト比を切り替える」 [p.38](#)
- ・「アスペクトモードの種類」 [p.39](#)

映像のアスペクト比を切り替える

投写する映像のアスペクト比（縦横比）を切り替えます。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンを押します。

- 3** [画質] を選択して、【決定】ボタンを押します。



- 4** [アスペクト比] を選択して、【決定】ボタンを押します。
- 5** 入力信号に合わせてアスペクト比を選択して、【決定】ボタンを押します。
- 6**  ボタンを押してメニューを終了します。

アスペクトモードの種類

接続機器からの入力信号に応じて、以下のアスペクト比を選択できます。



- ・著作権法で保護されている映像をアスペクト機能で圧縮、引き伸ばし、分割などを行い、営利目的で公衆に視聴させた場合は、著作権者の権利を侵害するおそれがあります。

アスペクトモード	説明
ノーマル	入力信号によってアスペクト比が自動的に設定されます。
フル	入力信号のアスペクト比を維持せずに、投写エリア全体に映像を表示します。
ズーム	入力信号のアスペクト比を維持して、投写エリアの横幅に合わせて映像を表示します。

本機は、投写環境や映像の種類に応じて、明るさ、コントラスト、色を最適化するためのカラーモードを用意しています。環境や映像の種類に合ったカラーモードを選択できます。

▶ 関連項目

- ・「カラーモードを変更する」 [p.40](#)
- ・「カラーモードの種類」 [p.41](#)

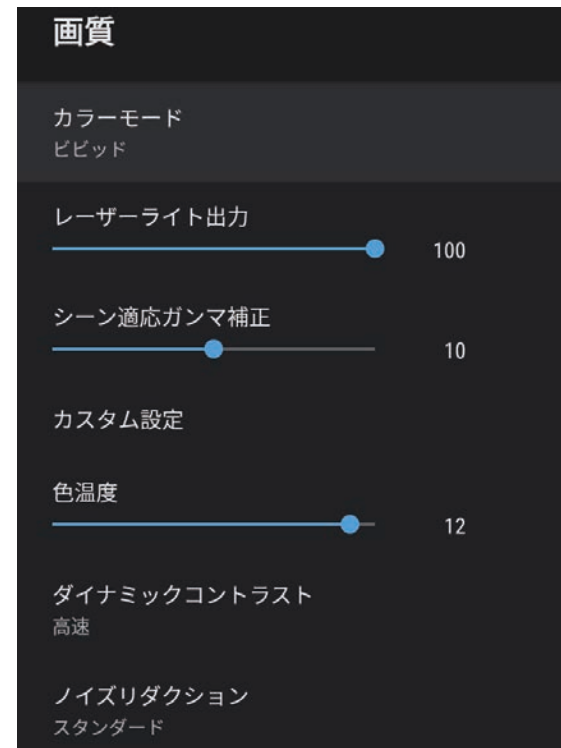
カラーモードを変更する

リモコンで「カラーモード」を変更して、映像を最適化します。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。

3 「画質」を選択して、【決定】ボタンを押します。



4 「カラーモード」を選択して、【決定】ボタンを押します。

5 お好みのカラーモードを一覧から選択して、【決定】ボタンを押します。

6  ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

- ・「画質メニュー」 [p.60](#)

カラーモードの種類

投写環境や映像の種類に応じて、以下のカラーモードを設定できます。

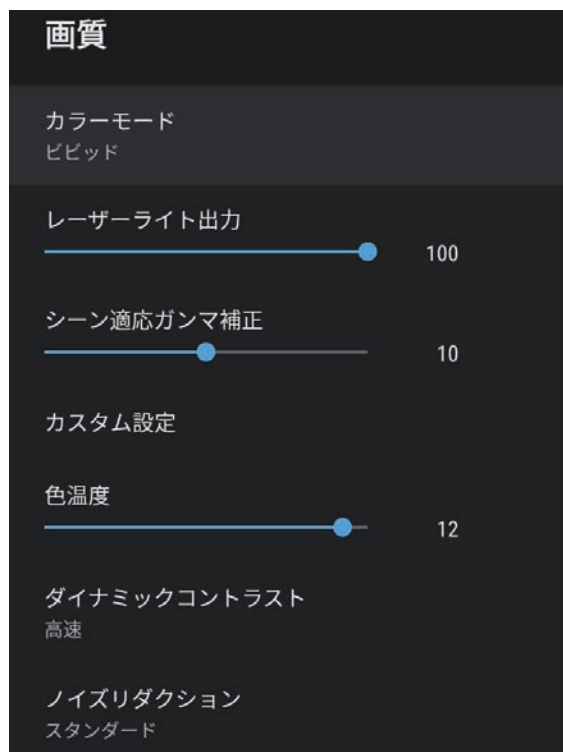
カラーモード	説明
ダイナミック	最も明るいモードです。明るさを優先したい場合に適しています。
ビビッド	明るい部屋でさまざまなコンテンツを楽しむ場合に適しています。
ブライトシネマ	明るい部屋で映画などのコンテンツを楽しむのに適しています。
シネマ	暗い部屋で映画などのコンテンツを楽しむのに適しています。
ナチュラル	映像の色調整を行いたい場合に適しています。

ダイナミックコントラストをオンにすると、投写映像の光量を自動的に調整できます。光量を自動的に調整することで、映像の明るさに合わせてコントラストを改善します。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。

3 [画質] を選択して、【決定】ボタンを押します。



4 [ダイナミックコントラスト] を選択して、【決定】ボタンを押します。

5 次のいずれかを選択して、【決定】ボタンを押します。

- ・ [高速] : シーンが切り替わったとき、すぐに光量を調整します。
- ・ [ノーマル] : 標準の光量調整を行います。

6  ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

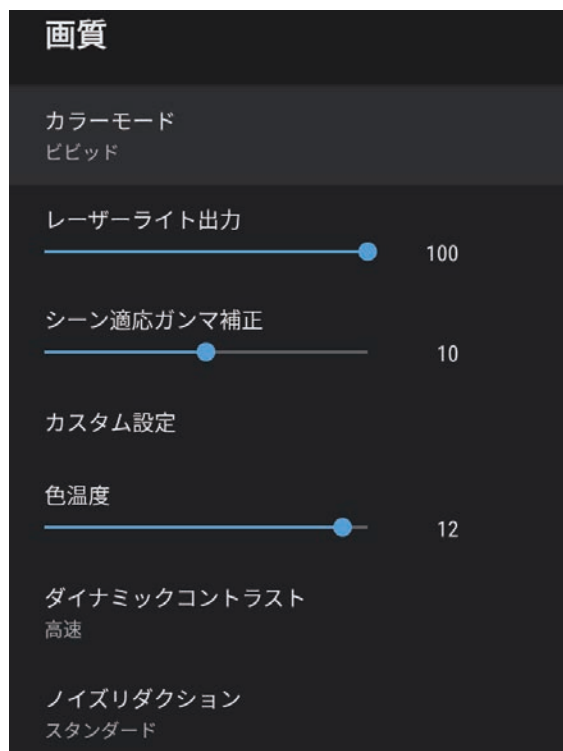
- ・ 「画質メニュー」 [p.60](#)

投写映像の品質と色合いを細かく調整できます。



シーンに応じて階調表現を最適化し、メリハリのある映像にするときは「シーン適応ガンマ補正」で映像を補正します。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押します。
- 3 「画質」を選択して、【決定】ボタンを押します。



- 4 「カスタム設定」を選択して、【決定】ボタンを押します。

- 5 次のいずれかを選択します。
 - ・ 「明るさ」：映像の明るさを調整します。
 - ・ 「コントラスト」：映像の明暗の差を調整します。
 - ・ 「彩度」：映像の鮮やかさを調整します。
 - ・ 「色合い」：映像全体の色合いを調整します。
 - ・ 「シャープネス」：映像の輪郭の見え方を調整します。

- 6  ボタンを押してメニューを終了します。



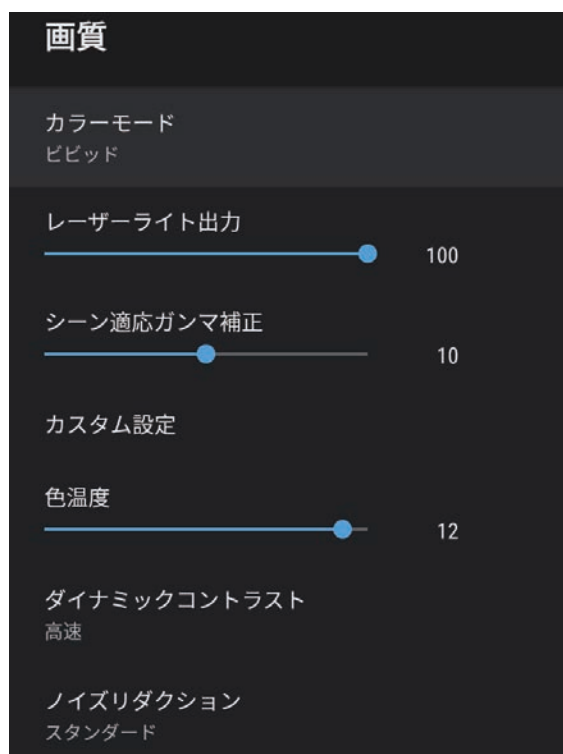
映像の青みが強すぎる、赤みが強すぎるなどのときは、「画質」メニューの「色温度」で映像全体の色合いを調整します。

▶ 関連項目

- ・ 「画質メニュー」 [p.60](#)

光源の明るさを設定します。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押します。
- 3 「画質」を選択して、【決定】ボタンを押します。



- 4 「レーザーライト出力」を選択します。
- 5 左右ボタンで明るさを設定します。

- 6  ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

- ・「画質メニュー」 [p.60](#)

音量ボタンは、プロジェクターの内蔵スピーカーの音量を調整します。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** 操作パネル、またはリモコンの  ボタンまたは  ボタンを押して、音量を調整します。
音量調節画面が表示されます。

注意

初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

電源を切る前に音量を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

本機は、お使いの投写環境に応じて、音声を最適化するためのサウンドモードを用意しています。

映像の種類や投写環境に合ったサウンドを選択できます。

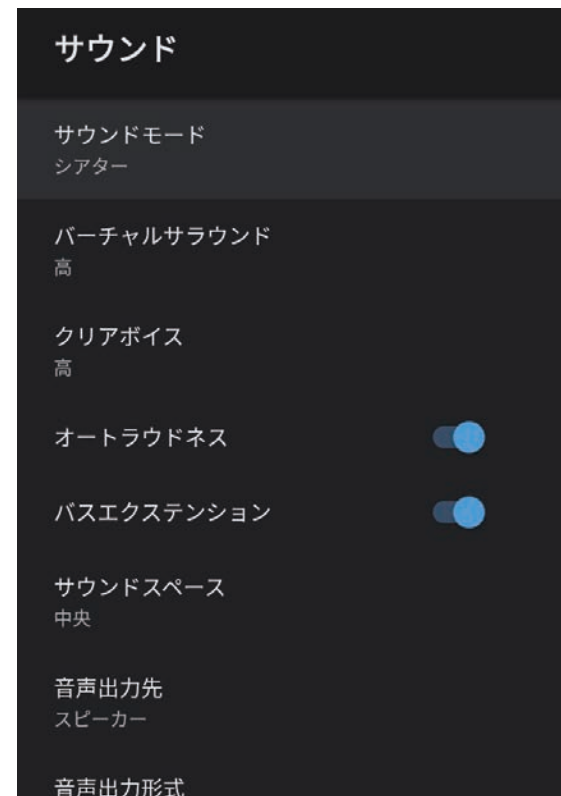


本機のスピーカーから出力される音声のみ調整できます。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。

3 [サウンド] を選択して、【決定】ボタンを押します。



4 [サウンドモード] を選択して、【決定】ボタンを押します。

5 お好みのサウンドモードを選択して、【決定】ボタンを押します。

6 お使いの投写環境に応じて、サラウンドなどの詳細を設定します。

7  ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

- ・「サウンドモードの種類」 [p.47](#)
- ・「サウンドの詳細設定」 [p.47](#)
- ・「サウンドメニュー」 [p.62](#)

サウンドモードの種類

本機の［サウンド］メニューでは、以下のサウンドモードを設定できます。

サウンドモード	説明
シアター	サラウンド効果により映画館の音響環境を再現します。臨場感と迫力のあるサウンドをお楽しみいただけます。
テレビ	音声を聞きやすく再生します。ニュース、ドキュメンタリーなどのテレビ番組を視聴する場合に適しています。
スタジオ	幅広い周波数帯域の再生とバランスの取れた音質により、クリエイターやアーティストが意図するサウンドを再現します。
スタジアム	スタジアムや観衆の雰囲気を実際に再現して、実況音声をはっきりと再生します。臨場感のあるスポーツ観戦をお楽しみいただけます。
ライブ/コンサート	コンサート会場の広がりや残響を再現して、高揚感を演出します。
カラオケモード	コンサート会場の広がりや残響を再現するため、カラオケコンテンツを再生する場合に適しています。カラオケ用のアプリやマイクが提供する音声効果を損なわずに楽曲を再生できます。

サウンドの詳細設定

お使いの環境に合わせて、詳細なサウンドの設定ができます。

設定	説明
バーチャルサラウンド	サラウンド効果の強度を調整します。設定値はサウンドモードごとに保存されます。
クリアボイス	音声がはっきりと聞こえるように調整します。設定値はサウンドモードごとに保存されます。
オートラウドネス	小さな音量で再生する場合でも、高音と低音のバランスが崩れないように自動で補正します。
バスエクステンション	低音域の強調処理により、力強い低音を再現します。
サウンドスペース	視聴位置に適した音質に調整します。
音声出力先	音声の出力先を選択します。 ［スピーカー］：本機のスピーカーから音声を出します。 ［ARC］：ARC対応のAVアンプから音声を出力するときに選択します。HDMIケーブルを本機のHDMI2 (ARC)端子に接続します。

設定	説明
音声出力形式	外部のオーディオ機器に音声出力するときの出力形式を選択します。 〔PCM〕：PCM（2ch）で出力します。 〔オート〕：高品質の音声出力するときを選択します。本機は以下の音声コーデックに対応しています。 • PCM（2ch） • AC-3（最大 5.1ch） • DTS（最大 5.1ch）  音声が正しく出力されないときは〔PCM〕を選択してください。
音声遅延制御	映像と音声のズレを補正します。音声が早いときは、値を高くします。 補正できるのは以下の音声です。 • 本機のスピーカーから出力される音声 • HDMI2 (ARC)端子から出力される音声

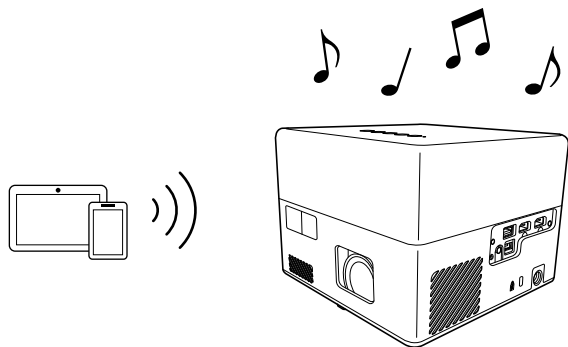
プロジェクターの便利な機能

プロジェクターの各機能を使用します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターをBluetoothスピーカーとして使用する」 [p.50](#)
- ・「映像を一時的に遮断する」 [p.52](#)
- ・「HDMI CEC機能」 [p.53](#)
- ・「セキュリティーケーブルを取り付ける」 [p.55](#)
- ・「ファームウェアを更新する」 [p.56](#)
- ・「プロジェクターを初期化する」 [p.57](#)

Bluetoothで接続したオーディオ機器から、本機のスピーカーに音声を出力できます。



- 1 操作パネルまたはリモコンの  ボタンを押して [Bluetoothスピーカーモード] に切り替えます。
[Bluetoothスピーカーモード] に切り替わると、以下のメッセージが表示されます。

Bluetoothスピーカーモード オン

- 2 接続するオーディオ機器のBluetooth機能をオンにして、機器の一覧から [Projector] を選択します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。



- ・ 音声のみを出力したいときは、操作パネルまたはリモコンの  ボタンを押して、映像を一時的に遮断することができます。
- ・ Bluetooth接続を切断するときは、接続機器のメニューから切断してください。

- 3 [Bluetoothスピーカーモード] を終了するときは、  ボタンを押します。

[Bluetoothスピーカーモード] を終了すると、以下のメッセージが表示されます。

Bluetoothスピーカーモード オフ



- ・ Bluetooth接続したオーディオ機器で再生される音声には遅延が生じます。
- ・ Bluetoothで複数のオーディオ機器を同時に接続することはできません。
- ・ Bluetooth対応のスピーカーやヘッドフォンを接続して、本機の音声をこれらの機器に出力することもできます。Android TV™のホーム画面右上の  から [デバイス設定] を選択して、ペアリングを行ってください。
- ・ Bluetoothオーディオ機器は一部の国と地域では使用できません。

▶ 関連項目

- ・ 「Bluetooth仕様」 [p.50](#)

Bluetooth仕様

バージョン	Bluetooth Ver. 5.0
対応プロファイル	A2DP、AVRCP、HID、HOGP
使用周波数	2.4 GHz帯 (2.402GHz - 2.480GHz)

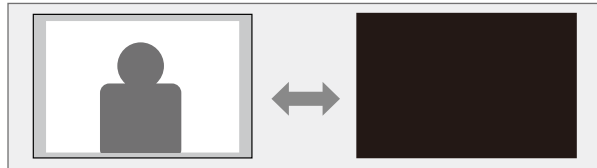
警告

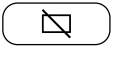
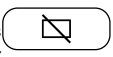
医療機器、自動ドアや火災報知機などの自動制御機器の近くで使用しないでください。電磁妨害による誤動作や事故の原因となります。



- ・機器の規格や種類によっては接続できないことがあります。
- ・通信可能距離内で接続しているときでも、電波状況によっては接続が切れることがあります。
- ・Bluetoothの通信方式は無線LAN（IEEE802.11b/g/n）や電子レンジと同一の周波数帯（2.4GHz）を使用しています。そのため、同時に使用すると電波干渉が発生し、映像や音声途切れたり接続できないことがあります。同時に使用したいときは、Bluetooth機器をこれらの機器の近くで使用しないでください。

本機から音声のみを出力したいときは、映像を一時的に遮断することができます。



- 1** 操作パネルまたはリモコンの  ボタンを押します。
光源が消灯して、映像が遮断されます。
- 2** 映像を再開するときは、再度  ボタンを押します。

本機のHDMI端子にHDMI CEC規格に対応したAV機器を接続すると、接続機器同士の連携動作が本機のリモコンで操作できます。

▶ 関連項目

- ・「HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する」 [p.53](#)

HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する

HDMI CEC機能を使って、接続したオーディオ機器を本機のリモコンで操作します。



- ・ 接続機器側の設定も必要です。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- ・ HDMI CEC規格に対応していても動作しない接続機器や、動作しない機能があります。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- ・ ケーブルがHDMIの規格に対応していないと動作しません。

1 リモコンの  ボタンを押します。

2 [設定] を選択して、【決定】ボタンを押します。



3 [HDMI CEC] を選択して、【決定】ボタンを押します。

4 [HDMI CEC] を [オン] にします。

5 必要に応じて、以下の項目を設定します。

- ・ [自動電源調整] : 本機の電源オフに連動して、接続機器の電源を切るときは [オン] に設定します。
- ・ [自動言語変更] : 本機の言語設定に合わせて、接続機器の言語設定を切り替えるときは [オン] に設定します。
- ・ [HDMI2 ARC] : HDMI ARC対応のオーディオ機器に音声を出力するときは、[オン] に設定します。

6  ボタンを押してメニューを終了します。

本機のリモコンを使って接続機器の再生、停止、音量調整などの操作ができます。

» 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.65](#)

盗難防止のために、Kensington社製のマイクロサーバーセキュリティーシステムを、本機のセキュリティーロットに取り付けることができます。



マイクロサーバーセキュリティーシステムについての詳細は、
<http://www.kensington.com/>をご覧ください。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターの各部名称 - 前面/上面」 [p.9](#)

ネットワーク経由で、プロジェクターファームウェアを最新の状態に更新できます。



最新のプロジェクターファームウェアが利用可能な場合は、自動的に通知が表示されます。画面の指示に従って、ファームウェアを更新します。

- 1 リモコンの Apps ボタンを押します。
- 2 アプリの一覧から  を選択して、【決定】ボタンを押します。
- 3 画面の指示に従って、ファームウェアを更新します。

注意

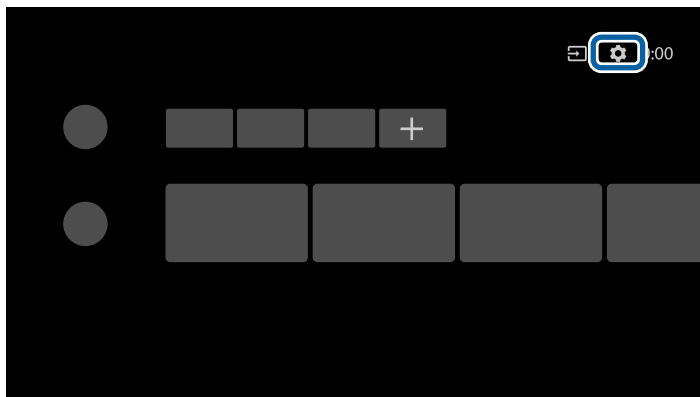
ファームウェアの更新中は、本機の電源を切らないでください。

本機のすべての設定を初期化することができます。



初期化を行うと、インストールされているアプリ、Googleアカウント情報、［プロジェクター設定］の内容などはすべて消去されます。消去したくない情報はメモしておくことをお勧めします。

- 1** リモコンの  ボタンを押します。
- 2** Android TV™ のホーム画面右上の  を選択します。



- 3** [デバイス設定] から初期化メニューを選択します。
- 4** 画面の指示に従って、初期化を開始します。

メニューの設定

プロジェクターメニューの機能と設定について説明します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクター設定を操作する」 [p.59](#)
- ・「画質メニュー」 [p.60](#)
- ・「サウンドメニュー」 [p.62](#)
- ・「表示メニュー」 [p.64](#)
- ・「設定メニュー」 [p.65](#)

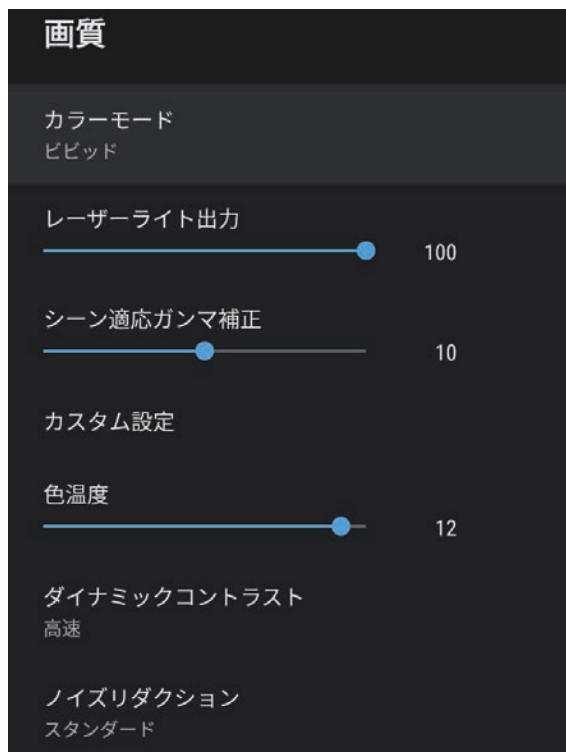
投写画面に表示されるメニューを使って、本機の各種動作を設定します。

- 1 リモコンの  ボタンを押します。
[プロジェクター設定] メニューが表示されます。



- 2 上下ボタンを押して、メニュー項目を選択します。
- 3 設定を変更するには、【決定】ボタンを押します。
- 4 上下ボタンを押して、設定項目を選択します。
- 5 上下左右ボタンを押して、設定を変更します。
- 6 メニューの設定が終わったら、 ボタンを押します。
- 7  ボタンを押してメニューを終了します。

〔画質〕メニューでは、現在投写している入力ソースの映像の画質を調整できます。



設定	選択肢	説明
カラーモード	ダイナミック ビビッド ブライトシネマ シネマ ナチュラル	映像の種類や使用環境に応じて、適切なカラーモードを選択します。
レーザーライト出力	レベル調整	カラーモードごとに、光源の明るさを設定します。

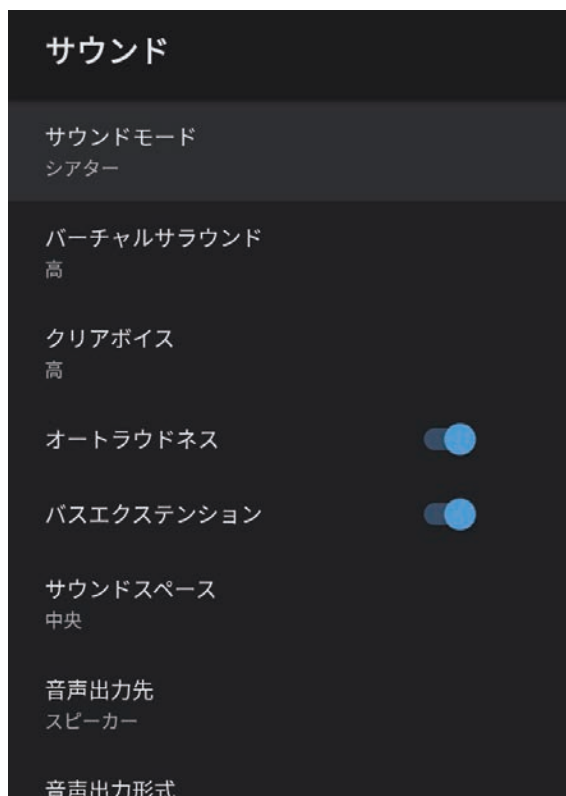
設定	選択肢	説明
シーン適応ガンマ補正	レベル調整	シーンに応じて階調表現を最適化して、メリハリのある映像にします。コントラストを強調したいときは、大きい値を選択します。
カスタム設定	明るさ	映像の明るさを調整します。
	コントラスト	映像のコントラストを調整します。
	彩度	映像の鮮やかさを調整します。
	色合い	映像の色合いを調整します。
	シャープネス	カラーモードごとに、映像の輪郭の見え方を調整します。
色温度	レベル調整	選択したカラーモードに応じて色温度を設定します。値を高くすると青みがかった映像になり、値を低くすると赤みがかった映像になります。
ダイナミックコントラスト	高速 標準 オフ	カラーモードごとに、映像の明るさに合わせて投写時の光量を調整します。
ノイズリダクション	強 スタンダード 弱 オフ	アナログ映像のざらつきを抑えます。ノイズリダクションの強さを選択します。
ディテール強調	レベル調整	カラーモードごとに、映像のテクスチャーや質感を強調します。
アスペクト比	ノーマル フル ズーム	映像のアスペクト比（縦横比）を設定します。

設定	選択肢	説明
HDMIビデオレンジ	オート フル リミテッド	HDMI端子に接続された機器の設定に合わせて、本機のビデオレベルを設定します。

▶ 関連項目

- ・「映像を最適化する（カラーモード）」 [p.40](#)
- ・「カラーモードの種類」 [p.41](#)
- ・「映像を最適化する（詳細設定）」 [p.43](#)
- ・「映像の光量を調整する」 [p.42](#)
- ・「光源の明るさを設定する」 [p.44](#)

【サウンド】メニューでは、プロジェクターのサウンドを最適化するための設定ができます。映像の種類や投写環境に合ったサウンドを選択できます。



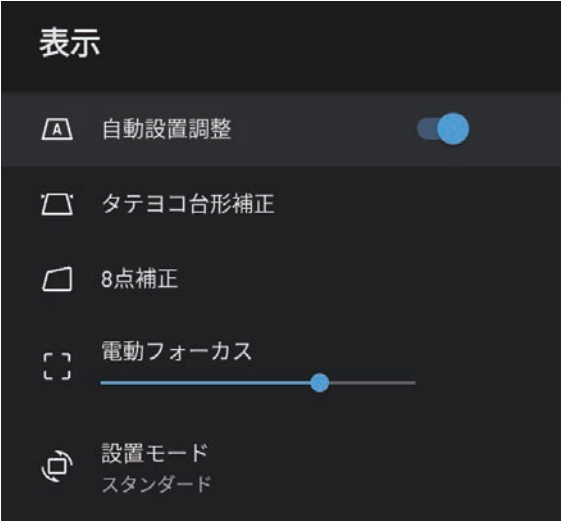
設定	選択肢	説明
サウンドモード	シアター テレビ スタジオ スタジアム ライブ/コンサート カラオケモード	再生するコンテンツの内容に適したサウンドモードを選択します。
バーチャルサラウンド	高 低 オフ	サラウンド効果の強度を調整します。設定値はサウンドモードごとに保存されます。
クリアボイス	高 低 オフ	音声をはっきりと聞こえるように調整します。設定値はサウンドモードごとに保存されます。
オートラウドネス	オン オフ	小さな音量で再生する場合でも、高音と低音のバランスが崩れないように自動で補正します。
バスエクステンション	オン オフ	低音域の強調処理により、力強い低音を再現します。
サウンドスペース	右 中央 左	視聴位置に適した音質に調整します。
音声出力先	スピーカー ARC	音声の出力先を選択します。 [スピーカー]：本機のスピーカーから音声を出力します。 [ARC]：ARC対応のAVアンプから音声を出力するときに選択します。 HDMIケーブルを本機のHDMI2 (ARC)端子に接続します。

設定	選択肢	説明
音声出力形式	PCM オート	外部のオーディオ機器に音声を入力するときの出力形式を選択します。 〔PCM〕：PCM（2ch）で出力します。 〔オート〕：高品質の音声を入力するときを選択します。本機は以下の音声コーデックに対応しています。 ・ PCM（2ch） ・ AC-3（最大 5.1ch） ・ DTS（最大 5.1ch） 音声が入正しく出力されないときは〔PCM〕を選択してください。
音声遅延制御	レベル調整	映像と音声のズレを補正します。音声が入早いときは、値を高くします。補正できるのは以下の音声です。 ・ 本機のスピーカーから出力される音声 ・ HDMI2 (ARC)端子から出力される音声

» 関連項目

- ・ 「サウンドを調整する（サウンドモード）」 [p.46](#)

[表示] メニューでは、映像の表示に関する設定ができます。



▶▶ 関連項目

- ・「映像の形状を補正する」 [p.33](#)
- ・「設置モードを選択する」 [p.31](#)

設定	選択肢	説明
自動設置調整	オン オフ	[オン] にすると、映像のピントと縦横のゆがみを自動的に補正します。
タテヨコ台形補正	ヨコ台形補正	映像の横方向のゆがみを補正します。
	タテ台形補正	映像の縦方向のゆがみを補正します。
8点補正	—	投写画面を見ながら、映像の形状とサイズを補正します。
電動フォーカス	レベル調整	映像のピントを調整します。
設置モード	スタンダード 上下反転	映像が正しい方向で投写されるように、スクリーンに対する本機の設置方法を選択します。

〔設定〕メニューでは、プロジェクターの各種設定ができます。



設定	選択肢	説明
スリープタイマー	0～120分	設定した時間が経過すると、自動的に本機の電源を切ります。
メニュータイマー	0～240秒	一定時間映像信号の入力がないときに、設定した時間が経過すると、自動的に本機のメニューを閉じます。
HDMI CEC	CECコントロール	本機のHDMI端子に接続されたオーディオ機器を、本機のリモコンから操作します。 〔HDMI CEC〕：〔オン〕にすると、本機のリモコンから接続機器を操作できます。 〔オン〕にすると、接続機器の電源を入れたときや、接続機器で再生を開始したときに、自動的に本機の電源をオンにします。

設定	選択肢	説明
		〔自動電源調整〕：〔オン〕にすると、本機の電源オフに連動して、自動的に接続機器の電源をオフにします。 〔自動言語変更〕：〔オン〕にすると、本機の言語設定に合わせて、自動的に接続機器の言語設定を切り替えます。 〔HDMI2 ARC〕：〔オン〕にすると、HDMI2 (ARC)端子に接続した機器のHDMI ARC機能を有効にします。
電源ボタン設定	サスペンド シャットダウン	電源ボタンを押したときの本機の動作を設定します。 〔サスペンド〕：スタンバイ状態からの起動が早くなります。 〔シャットダウン〕：スタンバイ状態での電力消費を最小限に抑えます。〔サスペンド〕よりも、本機の起動に時間がかかります。

▶ 関連項目

- ・「HDMI CEC機能」 [p.53](#)

プロジェクターをメンテナンスする

プロジェクターのメンテナンス方法について説明します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターのメンテナンス」 [p.67](#)
- ・「レンズを清掃する」 [p.68](#)
- ・「本機を清掃する」 [p.69](#)
- ・「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 [p.70](#)

プロジェクターのレンズは定期的に掃除する必要があります。また、エアフィルターや吸排気口も掃除して、本機の内部温度が上昇しないようにしてください。

交換が必要な部品は、エアフィルターとリモコンの電池のみです。他の部品を交換する必要があるときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

警告

掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてから行ってください。また、取扱説明書で指示している場合を除き、本機のケースを開けないでください。内部には電圧の高い部分が数多くあり、火災・感電・事故の原因となります。

プロジェクターのレンズは定期的に掃除し、表面に付着したホコリや汚れに気付いたときにも掃除してください。

- レンズのホコリや汚れは、清潔で乾いた市販のメガネ拭きなどで軽く拭き取ってください。
- ホコリやゴミが多いときは、ブロアーで取り除いてからレンズを拭いてください。

警告

- レンズを掃除するときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてから行ってください。
- レンズに付着したゴミ・ホコリの除去にエアダスターなどの可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機の内部は高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

- 光源消灯後すぐにレンズを拭かないでください。レンズが傷つく原因になります。
- レンズの表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

本機の掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてください。

- 本機のホコリや汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。本機に液体を直接スプレーしないでください。

注意

ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。本機のケースが変質、変色することがあります。また、エアダスターも使用しないでください。

エアフィルターは定期的にメンテナンスしてください。プロジェクターの内部温度が高くなっていることを示すメッセージが表示されたら、エアフィルターを掃除してください。エアフィルターの掃除は5,000時間を目安に行ってください。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で掃除してください。（大気中に含まれる粒子物質が0.04～0.2 mg/m3の環境下での使用を想定しています。）

注意

定期的にメンテナンスをしないと、プロジェクターの内部温度が高くなったときにメッセージが表示されます。内部の温度が上昇すると、故障や光学部品の早期劣化の原因となります。メッセージが表示されたらすみやかにエアフィルターを掃除してください。

関連項目

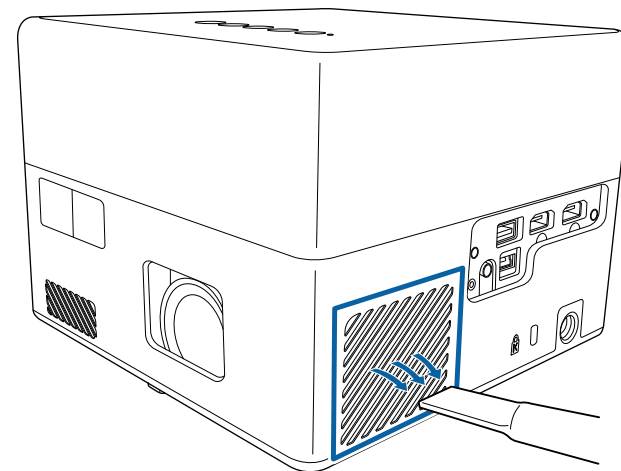
- ・「エアフィルターと吸排気口を清掃する」 [p.70](#)
- ・「エアフィルターを交換する」 [p.70](#)

エアフィルターと吸排気口を清掃する

エアフィルターおよび吸排気口は、汚れたときや掃除を促すメッセージが表示されたときに掃除してください。

- 1 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。

- 2 コンピューター用の小型掃除機か、柔らかいブラシでホコリを丁寧に取り除きます。



エアフィルターは取り外しできるため、両面を掃除できます。エアフィルターは水洗いできません。洗剤や溶剤も使わないでください。

注意

エアダスターは使用しないでください。可燃性の物質が残留したり、精密部分にホコリが入り込むおそれがあります。

- 3 ホコリを取り除くことができない場合や、エアフィルターが破損している場合は、新しいエアフィルターと交換してください。

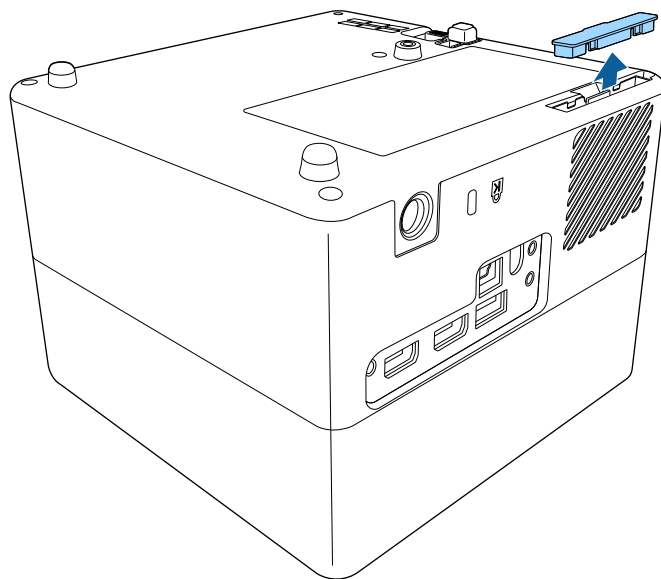
エアフィルターを交換する

以下の場合、エアフィルターを交換してください。

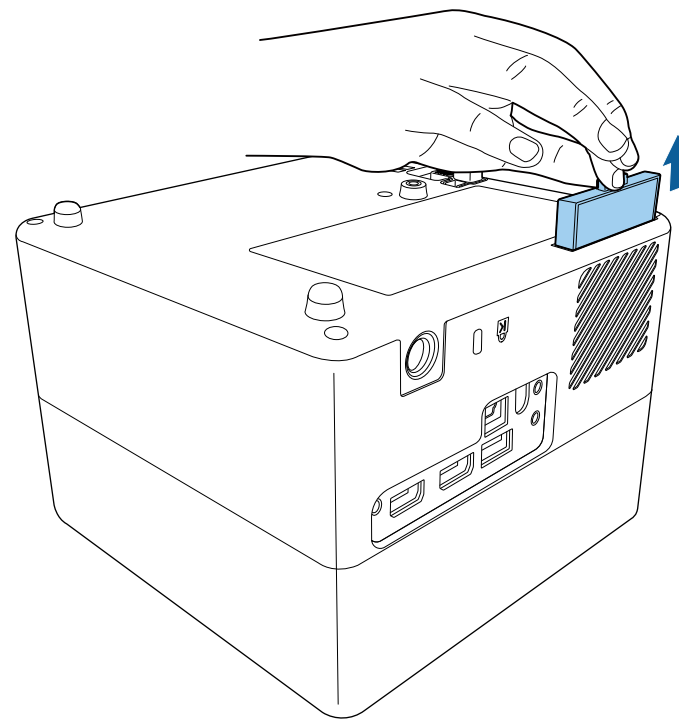
- ・エアフィルターが破損している

本機は天吊り設置したままでもエアフィルターの交換ができます。

- 1** 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。
- 2** 底面を上にしします。
- 3** エアフィルターカバーを開けます。



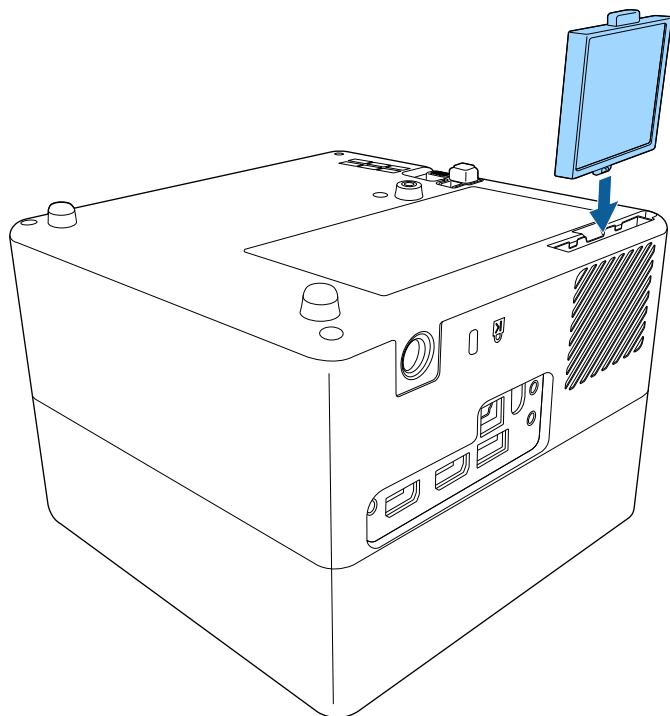
- 4** エアフィルターを取り外します。



使用済みのエアフィルターは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

- ・フィルターの枠：ABS
- ・フィルター：ポリウレタンフォーム

- 5** 新しいエアフィルターを差し込み、カチッと音がするまで丁寧に押し込みます。



- 6** エアフィルターカバーを閉めます。

▶ 関連項目

- ・ 「消耗品」 [p.88](#)

困ったときに

想定されるトラブルと、その対処方法について説明します。

▶ 関連項目

- ・「トラブルの対処方法」 [p.74](#)
- ・「インジケーターの見方」 [p.75](#)
- ・「電源に関するトラブル」 [p.77](#)
- ・「映像に関するトラブル」 [p.78](#)
- ・「音声に関するトラブル」 [p.81](#)
- ・「リモコン操作に関するトラブル」 [p.83](#)
- ・「HDMI CECに関するトラブル」 [p.84](#)
- ・「Wi-Fiネットワークに関するトラブル」 [p.85](#)
- ・「Android TV™に関するトラブル」 [p.86](#)

プロジェクターが正しく動作しないときは、一度電源を切り、電源コードを差し直してから再度電源を入れます。

問題が解決しないときは、以下を確認します。

- ・インジケーターで本機の状態を確認する。
- ・本書のトラブル一覧で対処方法を確認する。

問題が解決しないときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

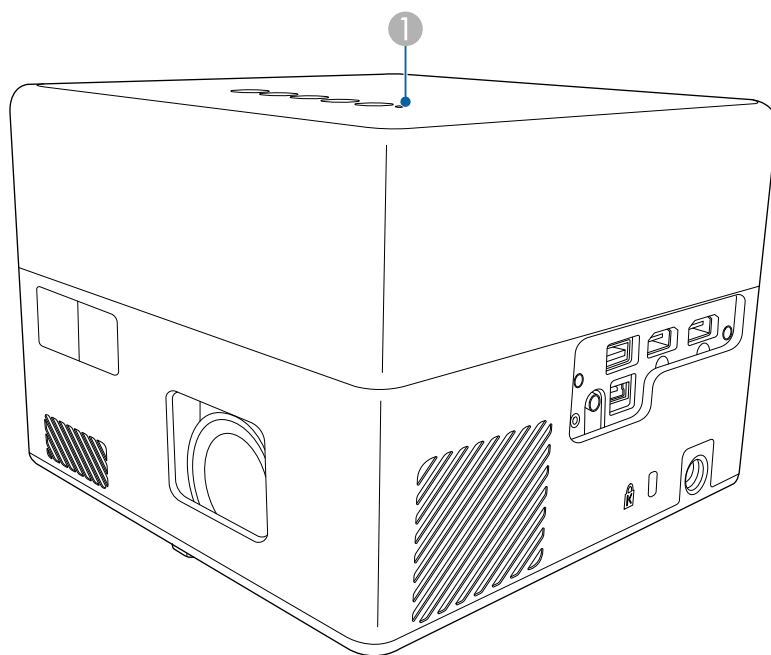


本機を修理に出された場合、初期化してお返すことがあります。各種オンラインサービスのアカウント情報を必ずお控えの上、修理をご依頼ください。

インジケータは、本機の状態をお知らせします。インジケータの色と状態を確認し、以下の表から対処方法を確認してください。



各インジケータがこの表にない状態のときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。



① ステータスインジケータ

プロジェクターの状態

インジケータの状態	状態と対処方法
青点灯	投写中の状態です。

インジケータの状態	状態と対処方法
青点滅	ウォームアップ中、シャットダウン中、または初期化中です。 青点滅中は、リモコン操作ができないことがあります。
消灯	スタンバイ状態またはスリープモードです。 電源ボタンを押すと、投写を開始します。
橙点灯	内部高温異常（オーバーヒート）状態です。自動的に消灯し、投写できなくなります。電源を切った状態で5分間待ち、温度を下げます。 - エアフィルターや排気口がふさがれていないか、周辺の物や壁で通気が妨げられていないか確認します。 - 高温にならない環境で使用するようにします。 - エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換します。 - 問題が解決しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
	レーザー警告です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
橙点滅	レーザー異常です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。 ファン異常またはセンサー異常状態です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

インジケータの状態	状態と対処方法
	内部異常状態です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、 お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の 連絡先にご相談ください。

▶ 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.65](#)
- ・「エアフィルターと吸排気口を清掃する」 [p.70](#)
- ・「エアフィルターを交換する」 [p.70](#)

電源に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- ・「電源が入らない」 [p.77](#)
- ・「予期せず電源が切れる」 [p.77](#)

電源が入らない

電源ボタンを押しても本機の電源が入らないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 電源コードが本機とコンセントに確実に接続されていることを確認します。
- 2** リモコンの電池を確認します。
- 3** 電源コードが故障している可能性があります。電源コードを抜いて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターの電源を入れる」 [p.28](#)
- ・「リモコンに電池を取り付ける」 [p.23](#)

予期せず電源が切れる

本機の光源が予期せずに消えるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** [設定] メニューの [スリープタイマー] で設定した時間が経過したため、本機がスリープモードになっている可能性があります。

す。操作パネルまたはリモコンの電源ボタンを押して、スリープモードから復帰します。



スリープモードから復帰すると、[スリープタイマー] の設定は自動的に [オフ] に戻ります。

- 2** ステータスインジケーターが橙色に点灯しているときは、本機の内部高温異常（オーバーヒート）で電源がオフになっています。



プロジェクターの設定によって、スタンバイ状態でもファンが回転することがあります。また、スタンバイ状態から電源をオンにしたときに、ファンが大きな音を立てて回転することがありますが、異常ではありません。

▶ 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.65](#)

投写映像に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- ・「映像が表示されない」 [p.78](#)
- ・「映像がゆがむ」 [p.78](#)
- ・「映像がぼやける」 [p.79](#)
- ・「映像の一部が表示されない」 [p.79](#)
- ・「映像にノイズが入る、乱れる」 [p.79](#)
- ・「映像の明るさや色合いが違う」 [p.80](#)
- ・「映像が上下反転して表示される」 [p.80](#)

映像が表示されない

映像が表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

1 本機の状態を確認します。

- ・操作パネルまたはリモコンの  ボタンを押して、映像が一時的に消されていないか確認します。
- ・インジケーターの色と状態を確認します。
- ・スタンバイ状態、スリープモードから復帰するには、本機の電源ボタンを押します。

☛ [設定] > [スリープタイマー]

2 ケーブルの接続を確認します。

- ・必要なケーブルがすべて接続されていること、本機の電源が入っていることを確認します。
- ・本機とビデオ機器を直接接続してください。
- ・HDMIケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。

3 ビデオ機器の状態を確認します。

- ・接続機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- ・ノート型コンピューターから投写するときは、コンピューターの画面出力を切り替えて、プロジェクターに映像を表示します。

4 次の点を確認します。

- ・オンラインコンテンツを視聴する際は、インターネットへの接続が必要です。Wi-Fiサービスを利用できるか確認してください。
- ・ビデオ機器のCEC電源連動機能を有効にして、電源を入れ直します。
- ・コンピューターのディスプレイ解像度が本機の対応解像度、周波数と合っているか確認します。必要に応じて、コンピューターのディスプレイ解像度を変更します。（詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。）
- ・本機のすべての設定を初期化します。

▶ 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.65](#)

映像がゆがむ

投写画面がゆがむときは、次の対処方法を確認してください。

1 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。

2 リモコンの ボタンを押して、[自動設置調整] でゆがみを補正します。

- 3** [表示] メニューの [タテヨコ台形補正]、または [8点補正] でゆがみを補正します。

▶ 関連項目

- ・「映像のゆがみとピントを自動的に補正する」 [p.33](#)
- ・「映像のゆがみを手動で補正する」 [p.33](#)
- ・「8点補正を使用して映像のゆがみを補正する」 [p.34](#)

映像がぼやける

投写映像がぼやけるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** [表示] メニューの [電動フォーカス] を調整します。
- 2** 次の点を確認します。
 - ・投写距離の推奨範囲内に設置します。
 - ・映像の高さ調整のために本機の傾斜角度を大きくすると映像がゆがみます。傾斜角度を小さくして台形補正の調整値を小さくします。
- 3** 本機のレンズを掃除します。



寒い場所から暖かい場所に持ち込んだときは、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。お使いになる1時間くらい前に本機を設置するようにします。

- 4** [画質] メニューで [シャープネス] を調整して、投写映像の画質を上げます。
 - ☛ [画質] > [カスタム設定] > [シャープネス]

- 5** コンピューターから映像を投写しているときは、解像度を下げるか、本機の解像度に合わせて解像度を変更します。

▶ 関連項目

- ・「画質メニュー」 [p.60](#)
- ・「ピントを調整する」 [p.36](#)
- ・「レンズを清掃する」 [p.68](#)

映像の一部が表示されない

コンピューターの映像が部分的にしか表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** [画質] メニューで [アスペクト比] が [ズーム] に設定されているときは、[ノーマル] に変更します。
- 2** 正しい設置モードを選択していることを確認します。[表示] メニューの [設置モード] で選択できます。
- 3** コンピューターのディスプレイ設定でデュアルディスプレイが無効になっているか、本機の対応解像度に合った設定がされているか確認します。（詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。）

▶ 関連項目

- ・「表示メニュー」 [p.64](#)

映像にノイズが入る、乱れる

投写映像に電子的な干渉（ノイズ）や妨害が入るときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 本機とビデオ機器を接続しているケーブルの状態を確認します。ケーブルが以下の状態であることを確認してください。
 - ・ 干渉を受けないように、電源コードから離れている
 - ・ ケーブルの両端が確実に接続されている
 - ・ 延長ケーブルを使用していない
- 2** 映像のゆがみを補正したときは、[画質] メニューで [シャープネス] を低い値に設定して、投写映像の画質を向上させます。
 - ☛ [画質] > [カスタム設定] > [シャープネス]
- 3** 延長ケーブルを使用して電源に接続しているときは、延長ケーブルを使わずに投写して、映像にノイズが入らないか確認します。
- 4** コンピューターのディスプレイ解像度やリフレッシュレートが本機の対応解像度、リフレッシュレートと合っているか確認します。

▶ 関連項目

- ・ 「画質メニュー」 [p.60](#)

映像の明るさや色合いが違う

投写映像が暗すぎたり明るすぎるとき、また色合いが正しく表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** [画質] メニューの [カラーモード] で、映像と投写環境に合うカラーモードを選択します。
- 2** お使いのビデオ機器の設定を確認します。

- 3** [画質] メニューで、[カスタム設定] や [色温度] を入力ソースに合わせて調整します。
- 4** [画質] メニューで [HDMI ビデオレンジ] を正しく設定します。
- 5** 必要なケーブルが本機とビデオ機器に確実に接続されていることを確認します。ケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。
- 6** 投写距離の推奨範囲内に設置します。

▶ 関連項目

- ・ 「画質メニュー」 [p.60](#)

映像が上下反転して表示される

正しい設置モードを選択します。

☛ [表示] > [設置モード]

▶ 関連項目

- ・ 「表示メニュー」 [p.64](#)

音声に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- ・「音が出ない、小さい」 [p.81](#)
- ・「Bluetoothスピーカーモードでのトラブル」 [p.81](#)

音が出ない、小さい

音が出ない、小さすぎるなどの問題があるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 操作パネルまたはリモコンの  ボタンまたは  ボタンを押して音量を調整します。
- 2** 本機とビデオ機器のケーブルが正しく接続されているか確認します。
- 3** ビデオ機器の以下の設定を確認します。
 - ・ビデオ機器の音量が大きくなっているか、音声出力が正しく設定されているか確認します。
 - ・MacとプロジェクターをHDMIケーブルで接続していて音が出ないときは、MacがHDMI端子からの音声出力に対応しているか確認します。
- 4** 本機のスピーカーから音声を出力するときは、以下の設定を確認します。
 - ・[サウンド] メニューで、[音声出力先] を [スピーカー] に設定します。
 - ・[サウンド] メニューで、[音声出力形式] を [PCM] に設定します。

- 5** HDMIケーブルで外部のオーディオ機器に接続して音声を出力するときは、以下の設定を確認します。

- ・HDMIケーブルを本機のHDMI2 (ARC)端子に接続します。
- ・[設定] メニューで、[HDMI CEC] を [オン] に設定します。
- ・[設定] メニューで、[HDMI2 ARC] を [オン] に設定します。
- ・[サウンド] メニューで、[音声出力先] を [ARC] に設定します。
- ・[サウンド] メニューで、[音声出力形式] を [PCM] に設定します。
- ・お使いのHDMIケーブルが、HDMI ARCに対応しているか確認します。



HDMI ARC非対応の外部オーディオ機器に音声を出力するときは、[設定] メニューで [HDMI CEC] を [オフ] に設定してください。

▶ 関連項目

- ・「サウンドメニュー」 [p.62](#)

Bluetoothスピーカーモードでのトラブル

Bluetoothオーディオ機器を本機に接続できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 操作パネルまたはリモコンの  ボタンを押して [Bluetoothスピーカーモード] に切り替えます。

- 2** Bluetooth機器に表示される接続可能機器の一覧から [Projector] を選択します。
- 3** 他のBluetooth機器が接続されていないことを確認します。
複数のBluetooth機器を同時に接続することはできません。
- 4** Bluetooth機器が本機のBluetooth仕様に適合しているか確認します。
- 5** 次の点を確認します。
 - ・ Bluetoothオーディオ機器と本機の間には障害物がないかを確認し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更します。
 - ・ Bluetoothオーディオ機器が離れすぎていないか確認します。
 - ・ 電子レンジ、2.4 GHz帯の周波数を使用するコードレス電話や無線機器などの近くで本機を使用しないでください。電波干渉が発生することがあります。

» 関連項目

- ・ 「Bluetooth仕様」 [p.50](#)
- ・ 「プロジェクターをBluetoothスピーカーとして使用する」 [p.50](#)

本機がリモコン操作に反応しないときは、次の対処方法を確認してください。



リモコンを紛失したときは、新たにリモコンをお買い求めいただけます。

- 1** リモコンの電池が正しくセットされていること、電池が切れていないことを確認します。必要に応じて、電池を交換します。
- 2** リモコンのボタンが押し込まれた状態になっていないか確認します。その状態ではリモコンが操作できないことがあります。ボタンを元の状態に戻してください。
- 3** リモコン信号が届く距離、角度からリモコンを操作します。
- 4** インジケーターの色と状態を確認します。
- 5** 蛍光灯の強い光、直射日光、赤外線機器の信号が、本機のリモコン受光部に干渉することがあります。照明の明るさを落とす、または直射日光や赤外線干渉を避けられる場所に本機を移動してください。
- 6** ペアリング画面が表示される場合は、リモコンの【決定】ボタンと  ボタンを同時に約3秒間押して、再ペアリングしてください。

▶ 関連項目

- ・「リモコンを操作する」 [p.24](#)
- ・「インジケーターの見方」 [p.75](#)
- ・「リモコンに電池を取り付ける」 [p.23](#)

HDMI CECで接続機器を操作できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** お使いのケーブルがHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。
- 2** 接続機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 3** [設定] メニューで、[HDMI CEC] を [オン] に設定します。
☛ [設定] > [HDMI CEC] > [CECコントロール]
- 4** 必要なケーブルが本機とビデオ機器に確実に接続されていることを確認します。



HDMIケーブルは本機のHDMI2 (ARC)端子に接続してください。

- 5** 接続機器の電源がスタンバイ状態になっているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 6** 新しく機器を接続したり、接続を変更した後に操作できないときは、接続機器のCEC機能を設定し直して、再起動します。

» 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.65](#)
- ・「HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する」 [p.53](#)

Wi-Fiネットワークに接続できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** お使いのWi-Fiルーターやモデムが正しく動作していることを確認します。再起動すると問題が解決することがあります。
- 2** Wi-Fiルーターと本機の間には障害物がないかを確認し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更します。
- 3** Android TV™のホーム画面でを押し、プロジェクター設定メニューを表示して、ネットワークの設定を確認します。
- 4** 本機を初期化したときは、初期設定でネットワークを設定しなおす必要があります。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターを初期化する」 [p.57](#)

Android TV™の視聴に関するトラブルは、以下のサイトを参照してください。

<https://support.google.com/androidtv/>

付録

本機の仕様や使用上の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

▶ 関連項目

- ・「オプション・消耗品一覧」 [p.88](#)
- ・「スクリーンサイズと投写距離」 [p.89](#)
- ・「対応解像度」 [p.91](#)
- ・「本機仕様」 [p.92](#)
- ・「外形寸法図」 [p.93](#)
- ・「安全規格対応シンボルマークと説明」 [p.94](#)
- ・「レーザー製品を安全にお使いいただくために」 [p.96](#)
- ・「用語解説」 [p.98](#)
- ・「一般のご注意」 [p.99](#)

下記のオプション・消耗品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。

これらのオプション品は2021年7月現在のものです。

予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

▶ 関連項目

- ・「設置用金具」 [p.88](#)
- ・「消耗品」 [p.88](#)

設置用金具

マウントプレート **ELPMB65**

VESA規格対応金具や三脚に取り付けるときに使用します。

セーフティーワイヤーセット **ELPWR01**

落下防止のため、本機と天吊り金具をつなぐときに使用します。



天吊り設置には特別な技術が必要です。詳細はお買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターをVESA対応製品や三脚に取り付ける」 [p.18](#)

消耗品

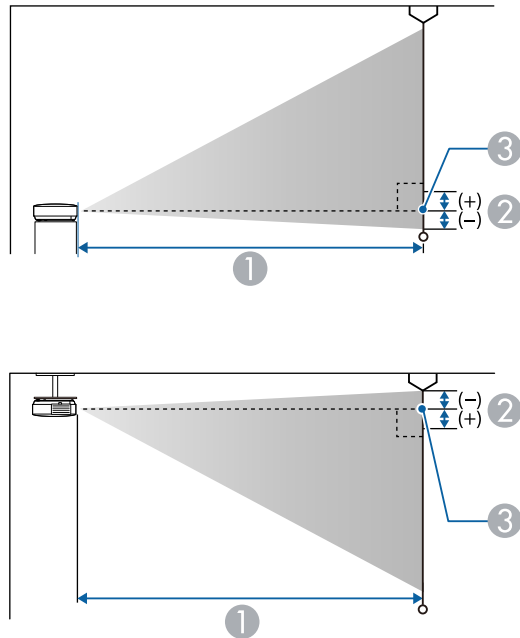
エアフィルター **ELPAF61**

使用済みエアフィルターと交換します。

▶ 関連項目

- ・「エアフィルターを交換する」 [p.70](#)

この表に従って、スクリーンからプロジェクターまでの距離を、投写映像の大きさに応じて決めます。



- ① 投写距離 (cm)
- ② レンズ中心からスクリーン下端（天吊りの場合はスクリーン上端）までの高さ (cm)
- ③ レンズ中心

16:9スクリーンサイズ		①	②
30型	66 × 37	65	0
40型	89 × 50	88	0
50型	111 × 62	110	0

16:9スクリーンサイズ		①	②
60型	133 × 75	133	0
70型	155 × 87	156	0
80型	177 × 100	179	0
90型	199 × 112	202	0
100型	221 × 125	224	0
120型	266 × 149	270	0
150型	332 × 187	338	0

16:10スクリーンサイズ		①	②
30型	65 × 40	70	0
40型	86 × 54	95	0
50型	108 × 67	120	0
60型	129 × 81	144	0
70型	151 × 94	169	0
80型	172 × 108	194	0
90型	194 × 121	218	0
100型	215 × 135	243	0
120型	258 × 162	292	0
130型	280 × 175	317	0
140型	302 × 188	341	0

4:3スクリーンサイズ		①	②
30型	61 × 46	80	0
40型	81 × 61	108	0

4:3スクリーンサイズ		①	②
50型	102 × 76	136	0
60型	122 × 91	164	0
70型	142 × 107	192	0
80型	163 × 122	220	0
90型	183 × 137	247	0
100型	203 × 152	275	0
120型	244 × 183	331	0

映像信号ごとのリフレッシュレートと解像度を示します。

HDMI端子からの入力信号

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度 (ドット)	色空間
VGA	60	640 × 480	RGB*
SDTV (480i/480p)	59.94	720 × 480	4:2:2/4:4:4/RGB
SDTV (576i/576p)	50	720 × 576	4:2:2/4:4:4/RGB
HDTV (720p)	50/59.94/60	1280 × 720	4:2:2/4:4:4/RGB
HDTV (1080i)	50/59.94/60	1920 × 1080	4:2:2/4:4:4/RGB
HDTV (1080p)	23.98/24/29.97/30/50/59.94/60	1920 × 1080	4:2:2/4:4:4/RGB
4K (3840 × 2160)	23.98/24/25/29.97/30	3840 × 2160	4:2:2/4:4:4*/RGB*
	50/59.94/60		4:2:0*
4K (4096 × 2160)	23.98/24/25/29.97/30	4096 × 2160	4:2:2/4:4:4*/RGB*
	50/59.94/60		4:2:0*

* 8ビットのみ

以下の信号はHDR10とHLGに対応しています。

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度 (ドット)	色空間**
1080p (1920 × 1080)	23.98/24/29.97/30/50/59.94/60	1920 × 1080	4:2:2/4:4:4/RGB
4K (3840 × 2160)	23.98/24/25/29.97/30	3840 × 2160	4:2:2

信号	リフレッシュレート (Hz)	解像度 (ドット)	色空間**
4K (4096 × 2160)	23.98/24/25/29.97/30	4096 × 2160	4:2:2

** 10ビット、12ビットのみ

商品名	EF-12
外形サイズ	幅175 × 高さ128 × 奥行き175 mm（突起部を含まず）
液晶パネルサイズ	0.62"
表示方式	ポリシリコンTFT アクティブマトリクス
解像度	2,073,600 ピクセル Full HD（横1,920 × 縦1,080ドット） × 3
フォーカス調整	オート
光源	レーザーダイオード
光源出力	最大22.5 W
波長	449 - 461nm
光源寿命 *	最大約20,000時間
音声最大出力	5 W × 2
スピーカー	2個（ステレオ）
電源	24V DC 4.1A
動作時消費電力	102 W
待機時消費電力	通信オン：2.0 W 通信オフ：0.5 W
動作高度	標高 0～3,000 m
動作温度範囲	標高 0～2,286 m：+5～+35℃（結露しないこと） 標高 2,287～3,000 m：+5～+30℃（湿度20～80%、結露しないこと）
保存温度範囲	-10～+60℃（湿度10～90%、結露しないこと）
質量	約2.1 kg

* 光源の明るさが半減するまでの目安時間です。（大気中に含まれる粒子物質が0.04～0.2mg/m3の環境下での使用を想定しています。使用条件や使用環境によって目安時間は変動します。）

▶ 関連項目

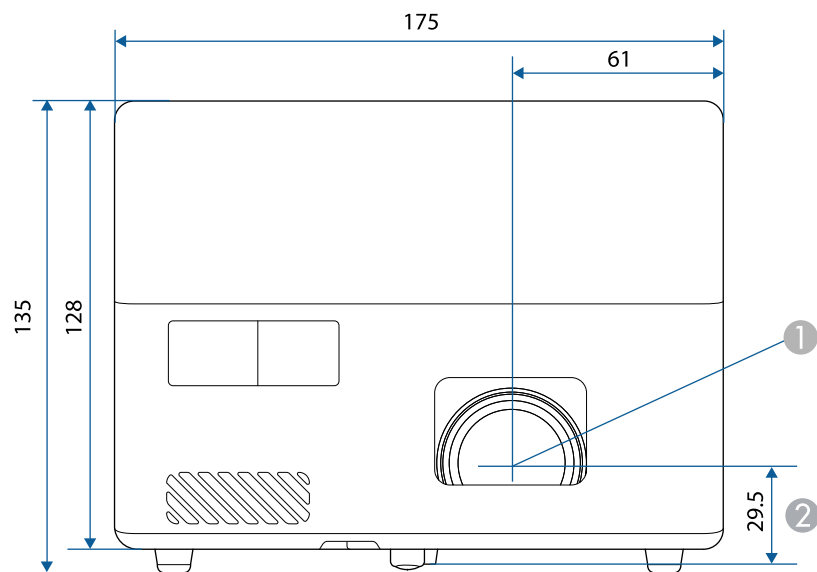
- ・「ACアダプター」 [p.92](#)
- ・「接続端子」 [p.92](#)

ACアダプター

メーカー	EPSON
型番	AD10370LF
入力	100-240V AC±10% 50/60Hz 1.75A
出力	24.0V DC 5.0A 120.0W

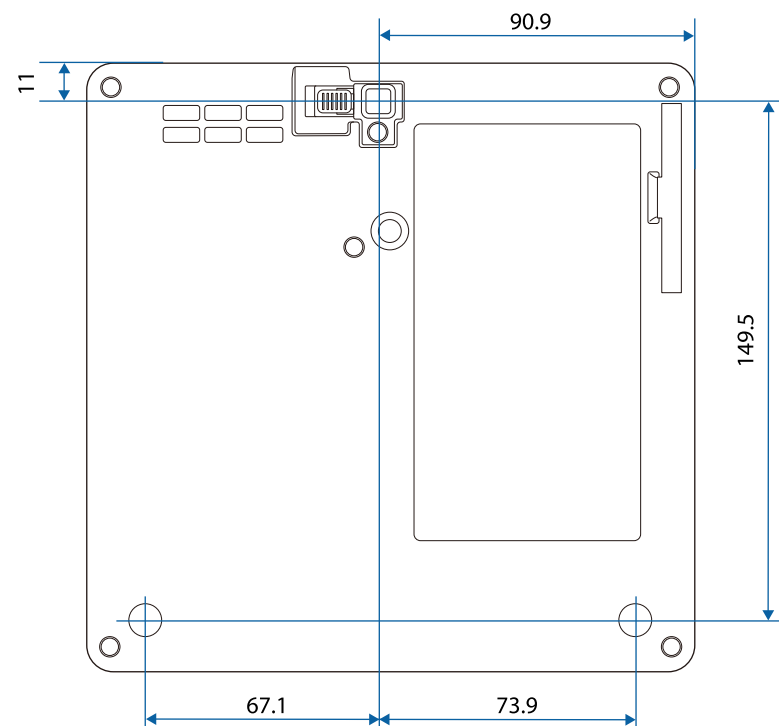
接続端子

Audio Out端子	1系統	ステレオミニピンジャック
HDMI1端子	1系統	HDMI
HDMI2 (ARC)端子	1系統	HDMI
USB-A端子	1系統	USBコネクタ（Aタイプ）
Service端子	1系統	USBコネクタ（Mini-B）



① レンズ中心

② レンズ中心から天吊り固定部までの寸法



単位：mm

製品上にシンボルマークが表示されている場合は、それぞれ以下の意味を持っています。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
①		IEC60417 No. 5007	電源ON 電源への接続を示す。
②		IEC60417 No. 5008	電源OFF 電源からの切り離しを示す。
③		IEC60417 No. 5009	スタンバイ 機器・装置の一部だけを通電状態にし、機器・装置を待機状態にするためのスイッチまたはその位置を示す。
④		ISO7000 No. 0434B, IEC3864-B3.1	注意 製品取扱時の全般的な注意を示す。
⑤		IEC60417 No. 5041	注意（高温） 高温の可能性があり、不注意に触れない方がよい箇所であることを示す。
⑥		IEC60417 No. 6042 ISO3864-B3.6	注意（感電危険） 感電（電撃）の危険性がある機器・装置であることを示す。
⑦		IEC60417 No. 5957	屋内専用 屋内使用専用を目的とする電気機器・装置であることを表す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
⑧		IEC60417 No. 5926	直流電源コネクタ極性 直流電源を接続してもよい機器のプラスおよびマイナス電極の接続を示す。
⑨		—	No. 8と同じ
⑩		IEC60417 No. 5001B	電池（一般） 電池を電源とする機器・装置に使用する。電池装着部分のカバーまたは接続端子を示す。
⑪		IEC60417 No. 5002	電池の向き 電池ケース本体および電池ケース内での向きを示す。
⑫		—	No. 11と同じ
⑬		IEC60417 No. 5019	保護接地 障害発生時の電撃（感電）保護用外部導体への接続端子または保護接地極の端子であることを示す。
⑭		IEC60417 No. 5017	アース No. 13の使用が明示的に要請されない場合の接地（アース）端子であることを示す。
⑮		IEC60417 No. 5032	交流 交流専用の機器・装置であり、交流に対応する端子であることを示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
16		IEC60417 No. 5031	直流 直流専用の機器・装置であり、直流に対応する端子であることを示す。
17		IEC60417 No. 5172	クラスⅡ機器 JIS C 9335-1/JIS C 8105-1でクラスⅡ機器と規定した安全性要求事項に適合する機器・装置であることを示す。
18		ISO 3864	一般的な禁止 特定しない一般的な禁止通告を示す。
19		ISO 3864	接触禁止 機器の特定の場所に触れることによって傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。
20		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止を示す。
21		—	プロジェクターの上に物を置いてはならないことを示す。
22		ISO3864 IEC60825-1	注意（レーザー放射） 製品上に注意が必要なレベルのレーザー放射部があることを示す。
23		ISO 3864	分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
24		IEC60417 No. 5266	待機、一部待機 機器・装置の一部が準備状態であることを示す。
25		ISO3864 IEC60417 No. 5057	注意（可動部品） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
26		IEC60417 No. 6056	注意（可動ファンのブレード） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
27		IEC60417 No. 6043	注意（鋭利な角） 保護規定上、鋭利な角には触れてはいけないことを指示する。
28		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止。
29		ISO7010 No. W027 ISO 3864	警告、光放射（UV、可視光、IR など） 光放射の近くにいるときは、目や肌に負傷を与えないように注意してください。
30		IEC60417 No. 5109	居住区域使用禁止 居住区域での使用に適さない電気機器・装置であることを示す。

本機はJIS C 6802:2014に適合したクラス1レーザー製品です。

以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

⚠ 警告

- ・ 本機のケースを開けないでください。内部に高出力レーザー製品が組み込まれています。
- ・ 本機の光源を直接見ないでください。強い光が視力障害などの原因となります。

⚠ 注意

本機を廃棄する場合は分解しないでください。国や地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。



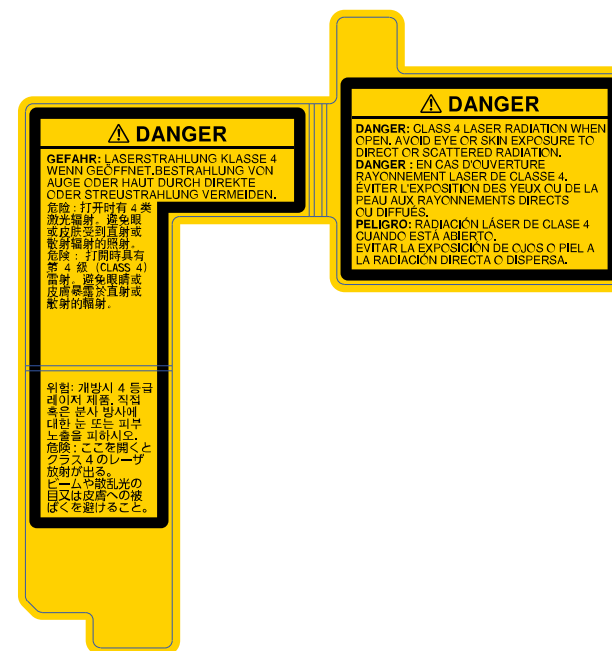
本機的光源はレーザーを使用しています。レーザーには以下のような特性があります。

- ・ 使用環境によって、光源の輝度が低下します。温度が高くなるほど、輝度の低下が大きくなります。
- ・ 使用時間の経過にともない、光源の輝度が低下します。使用時間と輝度低下の関係は明るさ設定で変更できます。

▶ 関連項目

- ・ 「レーザー警告ラベル」 [p.96](#)

内部

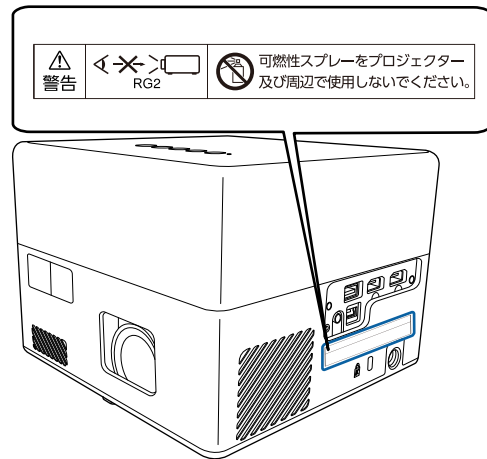


レーザー警告ラベル

本機の内部および側面にはレーザー警告ラベルが貼られています。

外部

投写中は、光源から放射されるレーザービームをのぞかないでください。（RG2 IEC/EN 62471-5:2015に準拠）



本書で使用している用語で、本文中に説明がないものや難しいものを簡単に説明します。詳細は市販の書籍などでご確認ください。

アスペクト比	画面の横と縦の比率をいいます。 横：縦の比率が16:9の、HDTVなどの画面をワイド画面といいます。 SDTVや、一般的なコンピュータのディスプレイのアスペクト比は4:3です。
コントラスト	色の明暗の差を強くしたり弱くしたりすることにより、文字や絵がはっきり見えたり、ソフトに見えたりすることです。この調整をコントラストの調整といいます。
Full HD	画面サイズの規格で、横1,920ドット×縦1,080ドットのことを呼びます。
HDCP	High-bandwidth Digital Content Protectionの略です。 DVIやHDMI端子を経由して送受信するデジタル信号を暗号化し、不正なコピーを防止する著作権保護技術です。 本機のHDMI端子はHDCPに対応しているため、HDCP技術で保護されたデジタル映像を投写できます。 ただし、HDCPの規格変更等が行われたときは、変更後の規格で保護されたデジタル映像を投写できなくなる場合があります。
HDMI™	High Definition Multimedia Interfaceの略で、デジタル家電やコンピュータ向けの規格です。HD映像とマルチチャンネルオーディオ信号をデジタル伝送できます。 デジタル信号を圧縮せず高品質のまま転送できます。デジタル信号の暗号化機能もあります。
HDTV	High-Definition Televisionの略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 ・ 垂直解像度720p、1080i以上（pはプログレッシブ走査、iはインターレース走査） ・ 画面のアスペクト比は16:9

ペアリング	Bluetooth機器で接続するとき、相互に通信できるよう、あらかじめ機器を登録することです。
リフレッシュレート	ディスプレイの発光体は、その明るさと色をごく短時間保持します。 そのため発光体をリフレッシュするために1秒間に何度も画像を走査しなければなりません。 その速度をリフレッシュレートと呼び、ヘルツ（Hz）で表します。
SDTV	Standard Definition Televisionの略で、HDTVの条件を満たさない標準テレビ放送のことです。
VGA	画面サイズの規格で、横640ドット×縦480ドットのことを呼びます。
WXGA	画面サイズの規格で、横1,280ドット×縦800ドットのことを呼びます。

本機をお使いの際の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

▶ 関連項目

- ・「使用限定について」 [p.99](#)
- ・「本機を日本国外へ持ち出す場合の注意」 [p.99](#)
- ・「瞬低（瞬時電圧低下）基準について」 [p.99](#)
- ・「JIS C 61000-3-2適合品」 [p.99](#)
- ・「商標について」 [p.99](#)
- ・「ご注意」 [p.100](#)
- ・「著作権について」 [p.100](#)

使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認のうえ、ご判断ください。

本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

- ・日本国内向けの本製品を海外で利用した場合は、保証の対象外となります。国内で販売する本製品は、日本国内使用を意図した安全規格基準のみ対応しているため、日本国以外でのご使用は違法となる場合があります。また、国や地域によっては電波使用制限があるた

め、ネットワーク機能を海外で使った場合、罰せられることがあります。

- ・電源コードは日本国内向けの電源仕様に基つき同梱されています。本機を日本国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源コードを現地にてお求めください。

瞬低（瞬時電圧低下）基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

商標について

「EPSON」はセイコーエプソン株式会社の登録商標です。「EXCEED YOUR VISION」およびそのロゴはセイコーエプソン株式会社の登録商標または商標です。

Mac、OS X、macOSは、Apple Inc.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows ロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Google、Google Play、YouTube、Android TV は Google LLC の商標です。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、ドルビーオーディオ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia InterfaceはHDMI Licensing Administrator, Inc.の商標、または登録商標です。 

Wi-Fi®はWi-Fi Alliance®の商標です。

Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、セイコーエプソン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商品名は、それぞれの所有者に帰属します。

Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における商標または登録商標です。

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

(6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

(7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

著作権について

本書の内容は予告なく変更することがあります。

© 2021 Seiko Epson Corporation

2021.7 414186600JA

ご注意

(1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。

(2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、お気づきの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。

(4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

(5) 本製品がお客様により不適当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者(「お問い合わせ先」参照)以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因